諏訪中央病院
内科専門研修プログラム

組合立諏訪中央病院

内科専門研修プログラム

別表１　内科専門研修施設群

別表２　内科専門研修管理委員会

別表３　各年次到達目標

別表４　週間スケジュール

別表５　各センターについて

別表６　各種実績

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

20260430

目次

諏訪中央病院内科専門研修プログラム 3
1. 理念・使命・特性 3
2. 募集専攻医数【整備基準 27】 7
3. 専門知識・専門技能とは 8
4. 専門知識・専門技能の習得計画 8
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】 11
6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】 11
7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】 12
8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】 12
9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、25、28】 13
10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 25、28、29】 14
11. 諏訪中央病院内科専攻医ローテーション表（モデル）【整備基準 16】 15
12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22、41、42、46、47】 20
13. 諏訪中央病院内科専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】 22
（別表 2「諏訪中央病院内科専門研修管理委員会」参照） 22
14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】 23
15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】 23
16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】 23
17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 24
18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 25
【整備基準 33】 25
専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】 28
専門研修施設（連携施設）の選択 29
専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】 29
別表 2　諏訪中央病院内科専門研修管理委員会 87
別表 3　　諏訪中央病院各年次到達目標 93
別表 4　諏訪中央病院内科専門研修　週間スケジュール（例） 94
別表 5　組合立諏訪中央病院・各センターについて 95
別表 6　各種実績 96

本プログラムは日本専門医機構並びに一般社団法人日本内科学会から公表されました「専門研修プログラム整備基準【内科領域】」に準拠して作成しています。

諏訪中央病院内科専門研修プログラム

1．理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

（1） 本プログラムは、八ヶ岳山麓に広がる長野県諏訪医療圏の中心的な急性期病院である組合立諏訪中央病院（360 床）を基幹施設とするプログラムです。同一医療圏に位置する富士見高原病院（161 床）での内科専門研修により諏訪地域医療の充実を図ると共に、どのような内科疾患にも対応できる病院総合内科医としての卓越した臨床能力を獲得します。さらに高度な医療を学ぶために、同一医療圏の諏訪赤十字病院、関東甲信地域の国保旭中央病院、亀田総合病院、信州大学医学部附属病院、聖路加国際病院、東海大学医学部付属病院、山梨県立中央病院、山梨大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、千葉大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、佐久総合病院、佐久総合病院佐久医療センター、松本協立病院、ひたちなか総合病院、東京科学大学病院、多摩総合医療センター、東京医科大学病院、昭和医科大学病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、水戸協同病院、依田窪病院、愛知県の藤田医科大学病院、中部ろうさい病院、トヨタ記念病院、一宮西病院、福岡県の飯塚病院、大阪府の北野病院、堺市立総合医療センター、大阪市立総合医療センター、鹿児島県の今村総合病院、特別連携施設ではリバーサイドクリニック、県立阿南病院での選択研修が可能です。

図 1.長野県諏訪医療圏

諏訪医療圏とは、岡谷市・諏訪市・茅野市・下諏訪町・原村・富士見町からなり、人口は約 18 万人の医療圏である。

諏訪中央病院がある茅野市
人　　口：5.5 万人（令和 3 年 1 月現在）
高齢化率：30.1%（令和元年 10 月現在）

(2)　「八ヶ岳の裾野のように幅広い臨床力をもつ医師を育てる」。これが当院の研修理念です。八ヶ岳の峰々は広く美しい裾野に支えられています。いくつかの峰々が Subspecialty 領域を表すとすれば、広く美しい裾野は内科専門研修により達成すべき幅広い臨床能力を意味しています。

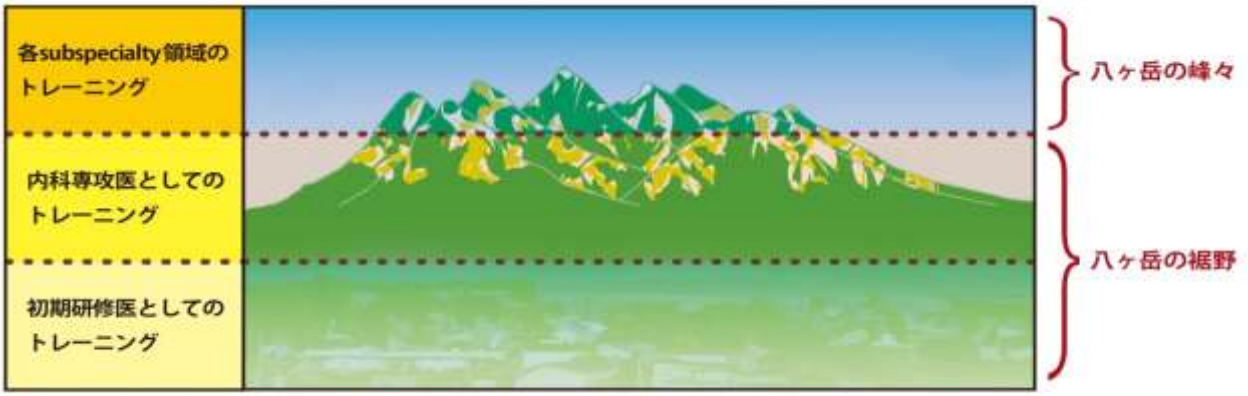


図 2.　諏訪中央病院研修理念イメージ図

初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム研修施設群での 3 年間に、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、臨床経験豊かな指導医による指導のもと、全人的な内科的医療に必要な知識と技能とを修得します。

具体的には、患者のどのような訴えにもしっかりと耳を傾け、その原因となる疾患を明らかにし、専門治療が必要な場合には迅速に専門医に紹介する能力を身につけることです。将来どの Subspecialty に進もうとも、その臨床能力の習得は多くの患者の命を救います。当院は地方都市の中核病院として急性期医療だけではなく、回復期リハビリ病棟でのケアや慢性疾患に対する外来診療、通院ができない場合には訪問での医療を行っています。まさにシームレスで患者やその家族の生活に寄り添う医療です。

使命【整備基準 2】

(1)　日本は前例のない超高齢社会を迎えています。内科専門医として、①幅広く深い内科全般にわたる知識を持ち、②エビデンスに基づいた最新医療を実践し、③患者や家族の希望を尊重し、④細心の注意をもって安全な医療、⑤患者の幸福を最優先した医療を行います。

(2) 急性期の華々しい医療にだけ目をとらわれるのではなく、患者の生涯に寄り添う優しい医療を心がけます。
(3) 組合立諏訪中央病院の伝統である多職種連携を通じてチーム医療の大切さを学び、地域の住民の健康をみんなで守ります。

特性

(1) 長野県諏訪医療圏の急性期病院である組合立諏訪中央病院での研修を通じて、内科専門医としての臨床能力（初期救急対応、臨床推論、エビデンスに基づいた治療等）を身につけます。

(2) 諏訪医療圏は内科学会組織上、信越ブロックに属します。八ヶ岳などの山岳地域に囲まれた諏訪医療圏は、交通事情なども含めた地理的制限から、歴史的に関東甲信地域の医療機関にご支援・ご協力いただき、2 次医療圏の医療を守ってきました。今後も 2 次医療圏の医療崩壊を防ぐために、関東甲信地域の医療機関との連携が不可欠です（2 次医療圏外の連携施設との地理的事情、歴史的経緯はP. 21～を参照）。

(3) (3) の地理的事情と歴史的経緯を踏まえて関東甲信地域をはじめとする多くの連携施設で 6 ヶ月間高度医療を学ぶプログラムを提示します。先進医療の素晴らしさを体験し、将来進むべき Subspecialty を考え、多くの優れた指導医と交流する期間です。諏訪医療圏がより広域の医療体制に支えられていることを経験します。

(4) 諏訪中央病院内科専門研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院時の診断・治療から退院時のフォローアップ外来予約や在宅ケアまで、患者や家族の希望に応じて社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。さらに退院後の外来診療や訪問診療・往診を通じて、急性期医療のみならず慢性期医療にも携わることができます。

(5) 基幹施設である組合立諏訪中央病院は、茅野市・原村・諏訪市の組合立の自治体病院です。長野県諏訪医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。地域密着型の第一線の病院として、コモンディジーズの経験はもちろん、高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、同一医療圏にある規模・役割の異なる病院（諏訪赤十字病院、富士見高原病院 等）との病病連携や、診療所との病診連携も経験できます。

(6) 基幹施設である組合立諏訪中央病院で「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群の内、少なくとも通算で 45 疾患群、80 症例以上を経験して専攻医登録評価システム（以下「J-OSLER」という。）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。（別表 3「諏訪中央病院各年次到達目標」参照）

(7) 諏訪中央病院内科専門研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目前半から立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

(8) 基幹施設である組合立諏訪中央病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群の内、少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（別表 3「諏訪中央病院各年次到達目標」参照）。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医は、勤務する医療機関や地域でのニーズに応じて、どのようにも変化し対応していくことが大切です。例えば、

①診断の難しい病態や複合疾患を診る病院総合診療医

②初期救急医療の担当医

③地域でのかかりつけ医

④ジェネラルマインドを持った内科系 Subspecialist

⑤若手医師に対する、良き教育者

となることが、諏訪中央病院内科専門研修プログラム修了者には期待されています。これらの医師は超高齢化社会での地域医療の担い手として、地域住民にも支持される医師像です。これらの基本的な臨床能力を得た上で、個人の希望に応じて内科専門分野のさらなる追求や大学などの高度医療・研究機関での臨床研究や基礎研究を行って欲しいと希望します。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記（1）～（7）により、諏訪中央病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 6 名とします。

(1) 組合立諏訪中央病院内科系専攻医※1 は 1 学年 5 名程度の採用実績があります。（別表 6「各種実績　3. 内科系専攻医採用数」参照）

※1：新専門医制度前の当院独自採用の卒後 3～5 年目の医師のこと。内科認定医・総合内科専門医・家庭医療専門医等を目指し、研修を積んでいる。

(2) 自治体病院として雇用人員数に一定の制限があるので、募集定員の大幅増は現実性に乏しいです。

(3) 剖検体数は例年 10 体程度です。（別表 6「各種実績　2. 剖検体数」参照）

(4) 諏訪医療圏は人口約 18 万人の医療圏で、当院は茅野市（5.5 万人（令和 3 年 1 月現在））を中心に、その諏訪医療圏の南部の医療を支える基幹病院です。患者の一部は山梨県北部の中北医療圏からも訪れます。組合立諏訪中央病院の診療実績を別表 6「各種実績　1. 診療実績」に掲載しているので参照されたい。

(5) 内分泌・アレルギー・膠原病領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 6 名に対し十分な症例を経験可能です。

(6) 1 学年 6 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。

(7) 専攻医 2 年目前半から 3 年目後半に研修する連携施設には、諏訪医療圏に位置する富士見高原病院と関東甲信地域、愛知県、福岡県、大阪府、鹿児島県における高次機能病院等 25 施設の計 26 施設あり、専攻医の様々な希望・将来像に対応可能です。

(8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、120 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

(1) 専門知識【整備基準 4】（「内科研修カリキュラム項目表」参照）

内科専門医が取得すべき専門知識の範囲は、内科学会が「内科研修カリキュラム項目表」として指針を示しています。当院もそれに準拠します。

専門知識の範囲（分野）は「総合内科」「消化器」「循環器」「内分泌」「代謝」「腎臓」「呼吸器」「血液」「神経」「アレルギー」「膠原病および類縁疾患」「感染症」「救急」で構成されます。それらは更に「解剖と機能」「病態生理」「身体診察」「専門的検査」「治療」「疾患」などに細分化され、それぞれを万遍なく取得することが必要とされます。

(2) 専門技能【整備基準 5】（「技術・技能評価手帳」参照）

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

(1) 到達目標【整備基準 8～10、16、32】（別表 3「諏訪中央病院各年次到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。

当院の研修プログラムは希望に応じて対応できるよう、ある程度の多様性を持たせてあります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。（研修実績の登録システムについては下記「(5) 研 修実績および評価を記録し、蓄積するシステム」参照）

○専門研修（専攻医）1 年

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、40 症例以上を経験し、その中から専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上作成します。症例・病歴要約は J-OSLER に登録しなくてはなりません。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医もしくは Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とをローテーション終了時に行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2 年

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、80 症例以上の経験をし、その中から専門研修修了に必要な病歴要約の残りを作成します（total 29 症例）。症例・病歴要約は、J-OSLER に登録しなくてはなりません。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医もしくは Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とをローテーション終了時に行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3 年
・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。ただし、修了認定は、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上とします。症例は、J-OSLER に登録しなくてはなりません。
・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医もしくは Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とをローテーション終了時に行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER への登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

尚、外来症例は、登録疾患は 1 割以下（200 症例なら 20 例、160 症例なら 16 例まで）、病歴要約 7 例以下（全て異なる疾患群）が認められます。

また、初期臨床研修医時の症例に関しては、内科領域の専攻研修で必要とされる修了要件 120 症例のうち 1/2 に相当する 60 症例を上限として、また病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限として認められます。ただし、初期臨床研修医時の症例に関しては、①日本内科学会指導医が直接指導をした症例であること。②主たる担当医師としての症例であること。③直接指導を行った日本内科学会指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること。④内科領域の専攻研修プログラムの統括責任者の承認が得られること。の 4 点を満たす事が必須条件となります。

諏訪中央病院内科専門研修では、「研修カリキュラム項目表」を修得し、専門研修修了までの最短期間は 3 年間としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

(2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科専門医に必要な専門知識、専門技能は、座学・実学を両輪とした研修によって会得しうるものです。臨床現場での研修は、その実学の部分を担います。当院はチーム制を敷いており、様々な形で担当症例にフィードバックがかかるシステムが構築されています。「内科研修カリ

キュラム項目表」に示される全てを臨床現場で経験する事は不可能ですが、各方面から様々なフィードバックを受け、担当症例を考え抜くことで、類縁疾患に遭遇した場合でも対処できる知識・技能を身につける事ができます。

①内科専攻医は、指導医もしくは Subspecialty 上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

②当院はチーム制を採用しており、ほぼ毎日各診療科チーム内でのカンファレンスが開催されます。また、週 1 回内科/総合診療科カンファレンスが開催されます。それらに担当症例を呈示し、フィードバックを得る事で、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

③救急総合診療センター（別表 5「組合立諏訪中央病院・各センターについて　1．救急総合診療センター」参照）での内科系外来や内科外来を通じて、初診を含む担当医としての経験を積みます。

④救急症例を平日（午前もしくは午後の週 1～2 回程度）、および休日・夜間（月 4 回程度）に担当医として経験を積みます。

⑤必要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

(3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応、2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下のような座学を行っています。これら座学および上述の実学での研鑽を通じ、内科の広範な分野を横断的に研修することを目指します。

①医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（各年 2 回程度開催）

②CPC（年 5 回程度開催）

③JMECC（年 2 回程度開催）

④地域参加型カンファレンス

・病院・開業医合同勉強会『二水医会』（地域開業医との合同勉強会。年数回開催）

・地域合同カンファレンス（長野県内の他病院と合同で行うカンファレンス。年数回開催）

⑤研修施設群合同カンファレンス

・内科ケースカンファレンス（研修施設群で行うケースカンファレンス。年数回開催）

⑥他科合同カンファレンス

・内科外科カンファレンス（内科・外科合同で行うカンファレンス。週 1 回開催）

・救急勉強会（診療部全体での勉強会。週 1 回開催）

⑦内科合同カンファレンス

・内科/総合診療科カンファレンス（内科各診療科合同で行うカンファレンス。週 1 回開催）

・昼カンファレンス（内科各診療科合同で行うカンファレンス。毎日開催）

⑧各診療科カンファレンス

・抄読会（週 1 回程度）
・内科検査検討会（週 2～3 回程度）
・入院症例カンファレンス（各診療科により週数回程度）
⑨その他
・院外講師招聘カンファレンス（総合診療、膠原病、感染症等、の専門医を必要に応じて招聘して行うカンファレンス。年数回開催）
⑩院外研修会
・内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
・各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

(4) 自己学習【整備基準 15】

内科学会が示す「研修カリキュラム項目表」は「内科医として内科専門医取得後も生涯に亘って研鑽し続けることを期待」して作成されたもので、全ての項目を上述の実学・座学で取得するのは困難です。それ故、求められる項目に対応するための自己学習による補完的な専門知識・専門技能の習得が必須となります。それらについては、以下の方法で学習します。
①内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
②日本内科学会雑誌にある MCQ
③日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題　など

(5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41、46】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域参加型カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

諏訪中央病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しています（別表 1「諏訪中央病院内科専門研修施設群」参照）。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である組合立諏訪中央病院臨床研修・研究センター（別表 5「組合立諏訪中央病院・各センターについて　2. 臨床研修・研究センター」参照）が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

諏訪中央病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

①患者から学ぶという姿勢を基本とする。

②科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM;evidence based medicine）。

③最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。

④診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。

⑤症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

①初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。

②後輩専攻医の指導を行う。

③メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

諏訪中央病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

①内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加（必須）。

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨。

②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。

③臨床的疑問を通じて臨床研究を行う。

④内科学に通じる基礎研修を行う。

（②～④については筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を 2 件以上行うこと）を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、諏訪中央病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

諏訪中央病院内科専門研修プログラムは基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である組合立諏訪中央病院臨床研修・研究センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

①患者とのコミュニケーション能力

②患者中心の医療の実践

③患者から学ぶ姿勢

④自己省察の姿勢

⑤医の倫理への配慮
⑥医療安全への配慮
⑦公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧地域医療保健活動への参画
⑨他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩後輩医師への指導
※後輩の指導を通して学習し、他職種からも常に学び、人材育成に努める姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、25、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を多様な環境において経験するための研修が必須です。諏訪中央病院内科専門研修施設群は長野県諏訪医療圏、関東甲信地域の医療機関から構成されています。

組合立諏訪中央病院は、長野県諏訪医療圏の一部から、山梨県北部の県境を診療範囲とする急性期病院であり、地域医療の拠点です。地域の病診・病病連携の中核であると共に、多機能を有したケアミックス型病院の形態をとっており、急性期医療から、地域包括ケア、回復期リハビリテーション、医療療養、緩和ケア、在宅医療の機能を備えています。コモンディジーズ、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験ができます。規模・役割の異なる病院との病病連携や診療所との病診連携も経験でき、患者のニーズに合わせて、急性期から慢性期・終末期まで継続的な関わりを経験することもできます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。地域医療の実践のため諏訪医療圏や関東甲信地域の医療機関との診療連携や人材交流も必要に応じて行い、地域医療を支えています。

連携施設は、内科専攻医の多様な希望・将来性（地域、専門）に対応しながら、対象医療圏において患者の生活に根差した地域医療や全人的医療を実践することを目的とした施設群として構成されています。諏訪医療圏に位置する富士見高原病院、同一医療圏の高次機能病院等である諏訪赤十字病院、関東甲信地域の高次機能病院等である国保旭中央病院、亀田総合病院、信州大学医学部附属病院、聖路加国際病院、東海大学医学部付属病院、山梨県立中央病院、山梨大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、千葉大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、佐久総合病院、佐久総合病院佐久医療センター、松本協立病院、ひたちなか総合病院、東京科学大学病院、多摩総合医療センター、東京医科大学病院、昭和医科大学病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、水戸協同病院、依田窪病院、愛知県の藤田医科大学病院、中部ろうさい病院、トヨタ記念病院、一宮西病院、福岡県の高次機能病院の飯塚病院、大阪府の高次機能病院の北野病院、堺市立総合医療センター、大阪市立総合医療センター、鹿児島県の今村総合病院を連携施設とし、リバーサイドクリニック、県立阿南病院を特別連携施設としています。

諏訪医療圏の連携施設では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。高次機能病院では、高度な急性期医療、組合立諏訪中央病院とは異なる地域性や専門性を特徴とする内科診療・希少疾患を中心とした診療経験を研修し、地域の中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

諏訪中央病院内科専門研修施設群は、長野県諏訪医療圏、関東甲信地域等の医療機関から構成しています。諏訪医療圏は内科学会組織上、信越ブロックに属します。八ヶ岳などの山岳地域に囲まれた諏訪医療圏は、交通事情なども含めた地理的制限から歴史的に関東甲信地域の医療機関

にご支援・ご協力いただき 2 次医療圏の医療を守ってきました。今後も 2 次医療圏の医療崩壊を防ぐために、関東甲信地域の医療機関との連携が不可欠です。このような地理的事情と歴史的経緯を踏まえて、現在も諏訪医療圏に具体的な貢献をしてくださっている関東甲信地方等の施設に連携施設を依頼させていただきました（2 次医療圏外の連携施設との地理的事情、歴史的経緯は別表１参照のこと）。関東等の医療機関とは距離が離れていますが、診療協力、人材交流により地域医療を支えるため必須の連携病院です。また、専門研修としても多様な地域性、病院機能の経験は重要と考えています。研修に際しては諏訪中央病院内科専門研修管理委員会が安定した研修のため支援します。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 25、28、29】

内科系医師に関して県内他施設から諏訪中央病院への医師派遣は十分ではなく、2 次医療圏に貢献するための医師獲得と育成が歴史的に重要な課題となってきました。

諏訪医療圏は内科学会組織上、信越ブロックに属します。八ヶ岳などの山岳地域に囲まれた諏訪医療圏は、交通事情なども含めた地理的制限から歴史的に関東甲信地域の医療機関にご支援・ご協力いただき、2 次医療圏の医療を守ってきました。今後も 2 次医療圏の医療崩壊を防ぐために、関東甲信地域の医療機関との連携が不可欠です。地理的事情と歴史的経緯を踏まえた関東甲信地域・諏訪医療圏にある連携施設で 12 ヶ月間高度医療を学ぶことで、先進医療の素晴らしさを体験し、将来進むべき Subspecialty を考え、多くの優れた指導医と交流することにより、諏訪医療圏がより広域の医療体制に支えられていることを経験します。

また諏訪中央病院内科専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、急性期から慢性期を通じて入院から退院、退院後のケア、あるいは終末期ケアまで可能な範囲で経時的に診断・治療の流れを通じて一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

11. 諏訪中央病院内科専攻医ローテーション表（モデル）【整備基準 16】

本プログラムでは、専攻医が病院を中心に内科の各領域を偏りなく研修し、幅広い知識と技術をもつ病院内科専門医を目指す事を基本としています。また、近隣の病院での研修を通じて地域医療を学ぶことも重要と考えています。

上記理念を前提とした上で、専攻医一人ひとりのキャリア志向にも柔軟に対応できるよう、3 つのコースを用意しています。内科専門研修開始時（内科専攻医 1 年目）に、将来のキャリア志向を踏まえた「暫定コース」を選択していただきます。本コースはあくまで「暫定」ですので、研修途中での変更は可能です。

3 つのコースの概要

① 内科基本コース

当院での研修期間を重視した標準的なコース
当院に 2 年間在籍し、多岐にわたる症例や総合診療をじっくり学ぶ
当院での診療を中心に、バランスよく研修を行いたい専攻医向け
研修配分
当院（基幹病院）24 カ月＋地域医療施設 6 カ月＋高次医療機関 6 カ月

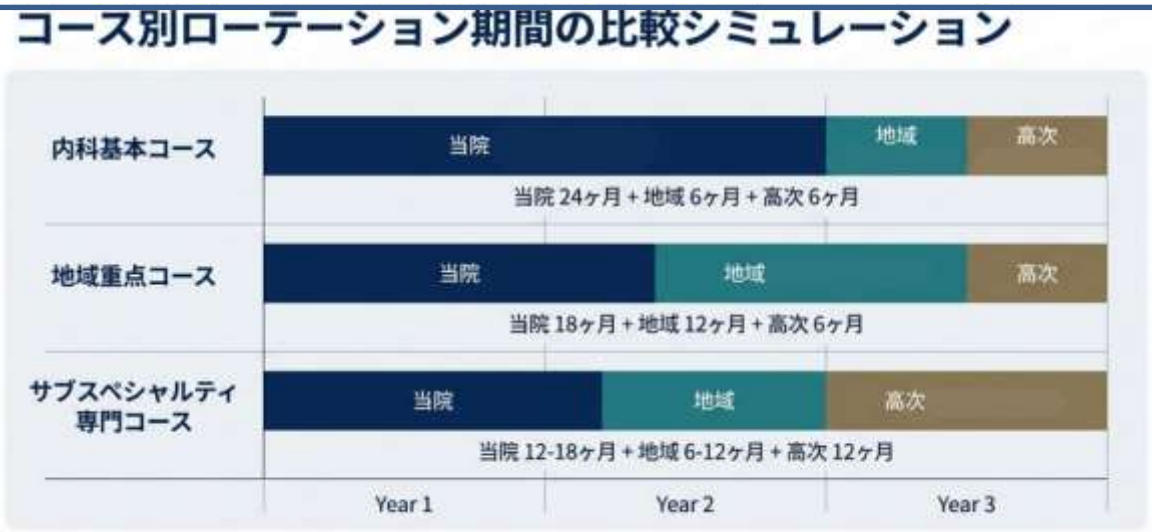
② 地域重点コース

総合診療・地域医療を深く学びたい専攻医向けのコース
地域医療研修（12 カ月）を重視し、当院および連携施設でバランスよく研修を行う
研修配分
当院（基幹病院）18 カ月＋地域医療施設 12 カ月＋高次医療機関 6 カ月

③ サブスペシャルティ専門コース

臓器別専門医・高度医療を志向する専攻医向けのコース
高次医療機関で 12 カ月間の専門研修を行い、特定分野の専門性を集中的に修得する
研修配分
当院（基幹病院）12～18 カ月＋地域医療施設 6～12 カ月＋高次医療機関 12 カ月

ただし、高次医療機関での研修期間（12 カ月）については、給与が研修先から支給されることを条件とする。当院での研修期間と合わせ、内科専門医取得に必要な要件を満たすよう調整する。



当院の内科ローテーション科一覧（過去の実績あり）

総合診療科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腫瘍内科、リウマチ膠原病内科、救急科、東洋医学科

◎高次医療機関・地域医療施設について

高次医療機関（令和８年５月時点）

聖路加国際病院（内）、山梨県立中央病院（内・救）、飯塚病院（内）、多摩総合医療センター（内）、信州大学医学部附属病院（内）、東海大学医学部附属病院（内）、東京女子医科大学病院（内）、ひたちなか総合病院（内）、前橋赤十字病院（内）、諏訪赤十字病院（救急科以外）、松本協立病院（内）、千葉大学医学部附属病院（神経内科）（内）、佐久総合病院（内）、佐久医療センター（内）、北野病院（内）、国保旭中央病院（内）、東京医科大学病院（内）、今村総合病院（内）、東京科学大学病院（内・総）、堺市立総合医療センター（内）、中部ろうさい病院（内）、亀田総合病院（内）、藤田医科大学病院（内・総）、トヨタ記念病院（内）、昭和医科大学病院（内）、大阪市立総合医療センター（内）、東京ベイ・浦安市川医療センター（内）、水戸協同病院（内）、一宮西病院（内）

地域医療施設

リバーサイドクリニック、諏訪赤十字病院、国保依田窪病院、富士見高原病院、県立阿南病院

◎コース選択のフローチャート

以下のステップに従い、自身のコースを検討する。

連携施設一覧

当院内科専門研修プログラムと連携を締結している施設は下記のとおり（2026 年 4 月時点）

諏訪中央病院内科専門研修プログラム
各研修施設の概要

区分	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数※	総合内科専門医数※	内科剖検数※
基幹施設	組合立諏訪中央病院	360	230	14	12	10	5
連携施設	富士見高原病院	161	100	5	2	0	1
連携施設	諏訪赤十字病院	455	177	9	1	1	0
連携施設	国保旭中央病院	983	300	14	1	1	1
連携施設	信州大学医学部附属病院	697	199	17	1	1	1
連携施設	聖路加国際病院	520	160	14	48	32	9
連携施設	東海大学医学部付属病院	804	264	8	1	1	0
連携施設	山梨県立中央病院	651	150	7	1	0	0
連携施設	山梨大学医学部附属病院	618	165	7	1	0.9	0
連携施設	千葉大学医学部附属病院	821	213	11	1	1	0
連携施設	佐久総合病院	309	152	9	1	1	0
連携施設	佐久総合病院佐久医療センター	450	180	9	1	1	0
連携施設	東京女子医科大学病院	1,379	492	10	1	1	0
連携施設	松本協立病院	199	152	5	5	11	1
連携施設	ひたちなか総合病院	302	150	8	1	10	9
連携施設	飯塚病院	1,006	561	18	13	44	8
連携施設	北野病院	685	305	9	34	34	9
連携施設	藤田医科大学病院	1,435	378	13	54	55	18
連携施設	東京科学大学病院	813	202	11	135	99	24
連携施設	多摩総合医療センター	805	249	11	10	18	14
連携施設	堺市立総合医療センター	474	187	10	32	28	13
連携施設	中部ろうさい病院	531	249	11	19	16	2
連携施設	亀田総合病院	917	493	13	34	34	22
連携施設	トヨタ記念病院	527	202	10	31	30	11
連携施設	東京医科大学病院	904	−	13	122	68	18
連携施設	今村総合病院	428	200	10	6	13	5
連携施設	前橋赤十字病院	555	360	9	15	15	10
連携施設	昭和医科大学病院	815	359	10	81	52	29
連携施設	大阪市立総合医療センター	1,063	280	10	49	50	14
連携施設	国保依田窪病院	140	140	4	0	2	0
連携施設	水戸協同病院	324	160	9	12	10	4
連携施設	東京ベイ・浦安市川医療センター	344	154	9	16	7	4
特別連携施設	リバーサイドクリニック	0	0	1	0	0	0
特別連携施設	県立阿南病院	52	52	1	0	0	0

ローテーションの実例

①内科基本コースの一般的なローテーション実例Ａ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	諏訪中央病院 呼吸器内科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 総合診療科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 循環器内科 （6ヶ月）					
2年目	諏訪中央病院 腫瘍内科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 救急科 （3ヶ月）			連携施設研修 富士見高原病院（必須） （6ヶ月）					
3年目	連携施設研修 藤田医科大学病院 （6ヶ月）						諏訪中央病院 循環器内科 （6ヶ月）					

②内科基本コースの一般的なローテーション実例Ｂ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	諏訪中央病院 総合診療科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 消化器内科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 救急科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 リウマチ膠原病内科 （3ヶ月）		
2年目	諏訪中央病院 総合診療科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 腫瘍内科 （3ヶ月）			連携施設研修 富士見高原病院（必須） （6ヶ月）					
3年目	連携施設研修 聖路加国際病院 （6ヶ月）						諏訪中央病院 リウマチ膠原病内科 （6ヶ月）					

＝＝＝

③長野県修学資金貸与者のローテーションに関して

長野県医学生修学資金貸与者に関しては、県の人事が優先されるため、研修内容が他の専攻医と異なる可能性があります。

長野県医学生修学資金貸与者の研修状況

入職年度	初期研修医	内科専攻医	総合診療専攻医
2019 年度	1 名		
2020 年度	1 名		
2021 年度		1 名	1 名
2022 年度		1 名	
2023 年度	1 名		1 名（連携施設より 1 年）
2024 年度	1 名		
2025 年度	2 名	1 名	

長野県修学資金貸与者のローテーションの実例（2 年目から消化器内科専門研修との連動研修）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	諏訪中央病院 総合診療科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 循環器内科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 救急科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 腫瘍内科 （3ヶ月）		
2年目	諏訪中央病院 消化器内科 （12ヶ月）											
3年目	連携施設研修 富士見高原病院（必須） （6ヶ月）						連携施設研修 信州大学医学部附属大学病院 （6ヶ月）					

＝＝

④自治医科大学卒義務年限者のローテーションに関して

自治医科大学卒義務年限者に関しては、制度上、富士見高原病院での研修が認められない可能性があり、また、県の人事が優先されるため、研修内容が他の専攻医と異なる可能性があります。

自治医科大学卒義務年限者の研修状況

入職年度	内科専攻医	総合診療専攻医
2022 年度	1 名	
2023 年度	1 名	1 名
2024 年度	1 名	
2025 年度	3 名	3 名

自治医科大学卒義務年限者のローテーションの実例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	諏訪中央病院 総合診療科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 循環器内科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 救急科 （3ヶ月）			諏訪中央病院 腫瘍内科 （3ヶ月）		
2年目	諏訪中央病院 消化器内科 （12ヶ月）											
3年目	連携施設研修 信州大学医学部附属大学病院 （6ヶ月）						連携施設研修 富士見高原病院（必須） （6ヶ月）					

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22、41、42、46、47】

(1) 組合立諏訪中央病院臨床研修・研究センターの役割

- 諏訪中央病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- 諏訪中央病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3 ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6 ヶ月毎に病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6 ヶ月毎にプログラムに定められる所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 各ローテーション終了時に、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通

じて集計され、1 ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。

・ メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を各ローテーション終了時に行います。指導医もしくは Subspecialty 上級医に加えて、看護部、技術部、薬剤部、事務部のメディカルスタッフから、接点の多い職員複数名（5 名以上）を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修・研究センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。

・ 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・ 専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が諏訪中央病院内科専門研修委員会により決定されます。

・ 専攻医は J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・ 専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、80 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。

・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修・研究センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医、指導医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医、指導医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

・ 担当指導医は Subspecialty の上級医、指導医と協議し、知識、技能の評価を行います。

・ 専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに諏訪中央病院内科専門研修委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下ｉ)～vi)の修了を確認します。

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とし、その研修内容を J-OSLER に登録。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（別表 3「諏訪中央病院各年次到達目標」参照）。

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv）J-MECC 受講

v）プログラムで定める講習会受講

vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2）諏訪中央病院内科専門研修管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に諏訪中央病院内科専門研修管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用います。

なお、「諏訪中央病院内科専門研修プログラム専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「諏訪中央病院内科専門研修プログラム指導医マニュアル」【整備基準 36、45】と別に示します。

13. 諏訪中央病院内科専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】（別表 2「諏訪中央病院内科専門研修管理委員会」参照）

(1) 諏訪中央病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

1）諏訪中央病院内科専門研修管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

諏訪中央病院内科専門研修管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者（ともに指導医）、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者、看護部責任者、薬剤部責任者、技術部責任者、事務部責任者、専攻医代表および連携施設担当委員で構成されます（別表 2「諏訪中央病院内科専門研修管理委員会」参照）。諏訪中央病院内科専門研修管理委員会の事務局に組合立諏訪中央病院臨床研修・研究センターをおきます。

2）諏訪中央病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 2 回開催する諏訪中央病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年決められた期日までに、諏訪中央病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

①前年度の診療実績

a)病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d)1 ヶ月あたり内科外来患者数、e)1 ヶ月あ

たり内科入院患者数、f)剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。

③前年度の学術活動

a)学会発表、b)論文発表

④施設状況

a)施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催。

⑤Subspecialty 領域の専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作成の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

組合立諏訪中央病院内科での研修期間中は基幹施設である組合立諏訪中央病院の就業環境に、連携施設での研修期間中は連携施設の就業環境に基づき、就業します（別表 1「諏訪中央病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である組合立諏訪中央病院の整備状況：

- 研修に必要な各専攻医の机と本棚、インターネット（Wi-Fi）環境と図書室があります。UpToDate、NEJM、BMJ を始め各種電子ジャーナルも使用可能です。
- 組合立諏訪中央病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課庶務係）があります。
- ハラスメント委員会が院内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、別表 1「組合立諏訪中央病院内科専門研修施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は諏訪中央病院内科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

(1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は各ローテーション終了時に行います。また、連携施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その

集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、および諏訪中央病院内科専門研修管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、諏訪中央病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

(2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の研修委員会、諏訪中央病院内科専門研修管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、諏訪中央病院内科専門研修管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

①即時改善を要する事項
②年度内に改善を要する事項
③数年をかけて改善を要する事項
④内科領域全体で改善を要する事項
⑤特に改善を要しない事項

尚、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- 担当指導医、施設の研修委員会、諏訪中央病院内科専門研修管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、諏訪中央病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して諏訪中央病院内科専門研修プログラムを評価します。
- 担当指導医、各施設の研修委員会、諏訪中央病院内科専門研修管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

(3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

組合立諏訪中央病院臨床研修・研究センターと諏訪中央病院内科専門研修管理委員会は、諏訪中央病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて諏訪中央病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

諏訪中央病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

諏訪中央病院内科専門研修管理委員会は、毎年ホームページでの公表や見学受け入れ等を行い内科専攻医の募集を行います。翌年度のプログラムへの応募者はホームページに記載されている採用スケジュールに従って応募手続きを行います。見学や面談、書類選考等を行い諏訪中央病院内科専門研修管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

問い合わせ先：組合立諏訪中央病院臨床研修・研究センター

E-mail：kensyu@suwachuo.jp　HP：http://www.suwachuo.jp/

諏訪中央病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行

います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて諏訪中央病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、諏訪中央病院内科専門研修管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから諏訪中央病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から諏訪中央病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに諏訪中央病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

別表１　諏訪中央病院内科専門研修施設群

○ 連携施設・特別連携施設研修は１年以上（2 年以下）、研修時期は 3 年間のうちどこでも可

○　長野県内

（諏訪赤十字病院、信州大学医学部附属病院、富士見高原病院、佐久総合病院、佐久医療センター、松本協立病院、依田窪病院）

長野県外

（国保旭中央病院、聖路加国際病院、東海大学医学部付属病院、山梨県立中央病院、山梨大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、千葉大学医学部附属病院、ひたちなか総合病院、飯塚病院、北野病院、藤田医科大学病院、東京科学大学病院、多摩総合医療センター、堺市立総合医療センター、亀田総合病院、中部ろうさい病院、トヨタ記念病院、東京医科大学病院、今村総合病院、前橋赤十字病院、大阪市立総合医療センター、昭和医科大学病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、水戸協同病院、一宮西病院）

特別連携施設

（リバーサイドクリニック、県立阿南病院）

研修施設群【整備基準 31】別表 1．各研修施設の概要

区分	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数※	総合内科専門医数※	内科剖検数※
基幹施設	組合立諏訪中央病院	360	230	14	12	10	5
連携施設	富士見高原病院	161	100	5	2	0	1
連携施設	諏訪赤十字病院	455	177	9	1	1	0
連携施設	国保旭中央病院	983	300	14	1	1	1
連携施設	信州大学医学部附属病院	697	199	17	1	1	1
連携施設	聖路加国際病院	520	160	14	48	32	9
連携施設	東海大学医学部付属病院	804	264	8	1	1	0
連携施設	山梨県立中央病院	651	150	7	1	0	0
連携施設	山梨大学医学部附属病院	618	165	7	1	0.9	0
連携施設	千葉大学医学部附属病院	821	213	11	1	1	0
連携施設	佐久総合病院	309	152	9	1	1	0
連携施設	佐久総合病院佐久医療センター	450	180	9	1	1	0
連携施設	東京女子医科大学病院	1,379	492	10	1	1	0
連携施設	松本協立病院	199	152	5	5	11	1
連携施設	ひたちなか総合病院	302	150	8	1	10	9
連携施設	飯塚病院	1,006	561	18	13	44	8
連携施設	北野病院	685	305	9	34	34	9
連携施設	藤田医科大学病院	1,435	378	13	54	55	18
連携施設	東京科学大学病院	813	202	11	135	99	24
連携施設	多摩総合医療センター	805	249	11	10	18	14
連携施設	堺市立総合医療センター	474	187	10	32	28	13
連携施設	中部ろうさい病院	531	249	11	19	16	2
連携施設	亀田総合病院	917	493	13	34	34	22
連携施設	トヨタ記念病院	527	202	10	31	30	11
連携施設	東京医科大学病院	904	−	13	122	68	18
連携施設	今村総合病院	428	200	10	6	13	5
連携施設	前橋赤十字病院	555	360	9	15	15	10
連携施設	昭和医科大学病院	815	359	10	81	52	29
連携施設	大阪市立総合医療センター	1,063	280	10	49	50	14
連携施設	国保依田窪病院	140	140	4	0	2	0
連携施設	水戸協同病院	324	160	9	12	10	4
連携施設	東京ベイ・浦安市川医療センター	344	154	9	16	7	4
特別連携施設	リバーサイドクリニック	0	0	1	0	0	0
特別連携施設	県立阿南病院	52	52	1	0	0	0

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域と Subspecialty 領域の研修の可能性

	基本領域													サブスペシャルティ領域												
	※各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性を3段階に評価 （○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）													※基幹施設は◎。認定施設に頼る関連施設及び特定施設は○。												
領域名 連携施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急	日本消化器学会	日本循環器学会	日本呼吸器学会	日本血液学会	日本内分泌学会	日本糖尿病学会	日本腎臓学会	日本肝臓学会	日本アレルギー学会	日本感染症学会	日本老年医学会	日本神経学会	日本リウマチ学会	日本消化器内視鏡学会	日本臨床腫瘍学会
諏訪中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	－	－	－	-	－	－	-	－	○	◎	○	○
国保旭中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	－	◎	－	－	○	◎	◎	－
信州大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
諏訪赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	－	○	◎	－	◎	－	◎	◎
聖路加国際病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東海大学医学部付属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
富士見高原病院	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	◎	×
山梨県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	－	◎	－	－	－	◎	◎	◎
山梨大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	◎
千葉大学医学部附属病院	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	◎	－	－	－
佐久総合病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	◎	－	－	－
佐久医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	◎	－	◎	－	－	◎	◎	◎
東京女子医科大学病院	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	－	◎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	◎	◎
松本協立病院	○	○	○	△	△	○	○	△	○	△	△	○	○	—	◎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ひたちなか総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	－	－	－	－	－	○	—	—	○	◎	◎	－
飯塚病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	－	◎	◎	◎	◎
北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
藤田医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東京科学大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
中部ろうさい病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	－	－	◎	－	－	－	◎	－	◎	◎	◎	－
多摩総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
堺市立総合医療センター	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○	◎	○	◎	◎	－	◎	◎	◎	—	◎	－	◎	－	◎	－
亀田総合病院	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
トヨタ記念病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
東京医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
今村総合病院	○	○	△	△	△	○	○	○	△	△	△	○	○	◎	○	－	◎	◎	－	◎	－	－	－	－	◎	◎	◎	○
前橋赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	◎	○
昭和医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
大阪市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎
水戸協同病院	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	◎	◎	○	－	◎	◎	－	－	－	－	－	－	－	◎	○
東京ベイ・浦安市川医療センター	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
国保依田窪病院	○	○	○	△	△	○	△	×	△	○	△	○	○	－	－	－	－	－	－	◎	○	－	－	－	－	－	○	－
リバーサイドクリニック（特別連携）	○	○	○	△	△	○	△	×	△	△	×	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
県立阿南病院（特別連携）	○	○	○	△	△	○	○	△	△	×	×	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。諏訪中央病院内科専門研修施設群は長野県諏訪医療圏および関東甲信地域の医療機関から構成されています。

組合立諏訪中央病院は長野県諏訪医療圏の急性期病院です。そこでの研修は地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に諏訪医療圏に位置する富士見高原病院と同一医療圏の高次機能病院等である諏訪赤十字病院及び関東甲信地域の高次機能病院等である国保旭中央病院、信州大学医学部附属病院、聖路加国際病院、東海大学医学部付属病院、山梨県立中央病院、山梨大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、千葉大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、佐久総合病院、佐久総合病院佐久医療センター、松本協立病院、ひたちなか総合病院、東京科学大学病院、多摩総合医療センター、亀田総合病院、東京医科大学病院、昭和医科大学病院、水戸協同病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、愛知県の高次機能病院である藤田医科大学病院、中部ろうさい病院、トヨタ記念病院、一宮西病院、福岡県の高次機能病院である飯塚病院、大阪府の高次機能病院である北野病院、堺市立総合医療センター、大阪市立総合医療センター、鹿児島県の今村総合病院で構成しています。特別連携施設はリバーサイドクリニック、依田窪病院、県立阿南病院で構成しています。地理的事情と歴史的経緯を踏まえて、現在も諏訪医療圏に具体的な貢献をしてくださっている関東甲信地方の施設に連携施設を依頼させていただきました。

高次機能病院等では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

専門研修施設（連携施設）の選択

- 専攻医 1 年目の前半で専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- 専攻医 3 年間の間で最大 2 年間、連携施設で研修をすることが可能です。
  連携施設での研修は富士見高原病院、同一医療圏の高次機能病院等である諏訪赤十字病院または関東甲信地域における高次機能病院等（国保旭中央病院、信州大学医学部附属病院、聖路加国際病院、東海大学医学部付属病院、山梨県立中央病院、山梨大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、千葉大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、佐久総合病院、佐久総合病院佐久医療センター、松本協立病院、ひたちなか総合病院、東京科学大学病院、多摩総合医療センター、亀田総合病院、東京医科大学病院、昭和医科大学病院、水戸協同病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、依田窪病院）、愛知県の高次機能病院である藤田医科大学病院、中部ろうさい病院、トヨタ記念病院、一宮西病院、福岡県の高次機能病院である飯塚病院、大阪府の高次機能病院である北野病院、堺市立総合医療センター、大阪市立総合医療センター、鹿児島県の今村総合病院、特別連携施設の場合、リバーサイドクリニック、県立阿南病院から選択となります。（ローテート順は個々人により異なります。）

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

長野県諏訪医療圏の地域医療を支えるための施設を中心に同一医療圏または関東甲信越地域、愛知県、福岡県、大阪府、鹿児島県にある高次機能病院と専門研修施設群を構成しています。

＜諏訪医療圏における諏訪中央病院が置かれる、地理的事情と歴史的経緯＞

諏訪中央病院は長野県茅野市にあり、茅野市・諏訪市・原村の 3 自治体組合が運営する 360 床の地方中規模病院で、長野県の諏訪医療圏（2 次医療圏）を支えています。

内科系医師に関して県内他施設からの医師派遣は十分ではなく、2 次医療圏の医療に貢献するための医師獲得と育成が歴史的に重要な課題となってきました。

諏訪医療圏は内科学会組織上、信越ブロックに属します。八ヶ岳などの山岳地域に囲まれた諏訪医療圏は交通事情なども含めた地理的制限から歴史的に関東甲信地域の医療機関にご支援・ご協力いただき、2 次医療圏の医療を守ってきました。今後も 2 次医療圏の医療崩壊を防ぐために関東甲信地域の医療機関との連携が不可欠です。

以上のような地理的事情と歴史的経緯を踏まえて、現在も諏訪医療圏に具体的な貢献をしてくださっている関東甲信地方の施設に、人的交流が深く、有意義かつ貴重な研修を積むことができる福岡県と大阪府に位置する医療機関にそれぞれ連携施設を依頼させていただきました。これら連携施設は、内科専門医に続く Subspecialty 領域研修においても連携を深めることが求められる高次機能医療機関です。これら連携施設との関係を更に深めることを通じて、2 次医療圏の医療を守っていくことを構想しています。

各連携施設との今までの歴史的連携関係、地理的位置関係は以下の通りです。

＜国保旭中央病院＞

諏訪中央病院がある長野県茅野市と国保旭中央病院がある千葉県旭市は昭和 49 年 12 月から姉妹都市の提携を結んでいます。市民職員等による研修視察などにも積極的に取り組んでいる関係にあります。

今までお互いの病院で直接の人事交流はありませんでしたが、専門医制度の確立を契機にそれぞれの自治体の中心的な病院同士での交流、研修を確立し、共に支え合いながら地域医療を守る体制を作りたいと考えています。そのためにも内科専門医制度において、お互い基幹施設となり、それ

ぞれの連携施設となることを計画しています。
地理的にはやや遠方にはなりますが、同じ関東甲信地域の病院であり、行き来には大きな問題を生じないと考えています。
＜信州大学医学部附属病院＞
諏訪医療圏を支援してくださる中心的な医療機関です。診療のみならず、医師の人事交流、教育なども含めて、つながりの深い大学病院です。平成 27 年度には初期研修医のたすき掛け研修システムを構築し、初期研修医 1 名を受け入れました。平成 29 年度にも 1 名受け入れています。当院で後期研修を受けた医師が複数名、信州大学各科医局に入局し長野県の医療に貢献しております。また信州大学内科系医局に所属する医師の勤務により当院の診療が守られてきた経緯もあります。
諏訪中央病院は諏訪医療圏の患者を守るために信州大学との連携を重視し、平成 27 年度の増改築にあたりヘリポートを設置し、重症患者の搬送なども含めて 2 次医療圏を超えた協力関係を構築する努力を行ってきました。また「信州メディカルネット」を介した患者情報の共有システムなども構築しています。
信州大学医学部附属病院は車で諏訪中央病院から約 1 時間の距離にある施設です。

＜聖路加国際病院＞
平成 27 年度現在、全国平均では膠原病専門医は人口 10 万人当たり 3.5 人存在しますが、諏訪医療圏においては人口 10 万人あたりリウマチ専門医が 1.5 人しかおりません（リウマチ学会 HP より試算）。リウマチ専門医の不足する諏訪医療圏で、膠原病専門診療の住民ニーズに応えるため、平成 22 年から現在に至るまで、聖路加国際病院のリウマチ専門医を定期的に派遣していただいております。当院内科系医師、後期研修医が派遣医師から指導を受け、日常臨床の充実に努めています。当院の患者が聖路加国際病院への紹介で精査をうけることもあります。平成 26 年には当院後期研修医が聖路加国際病院へ異動し、膠原病領域で研修を受けている実績もあります。現在では当院の膠原病外来も定期的に御支援をいただいております。2 次医療圏の医療を守ると同時に、膠原病領域のより充実した研修を専攻医に提供するためにもなくてはならない支援です。
また、当院の初期・後期研修医の多くが、聖路加国際病院で開催される各種セミナーを通じて研修を受けて臨床能力の拡充に取り組んでいます。
諏訪地方の医療レベルを維持し医療崩壊を防ぐためには、今後も聖路加国際病院との定期的な専攻医を含めた交流が必要と考えます。
JR 中央東線の特急列車を利用することで 3 時間以内に到達できる距離にあります。今までの実績を鑑みても、医師、患者ともに日帰りでの行き来が可能な交通事情です。

＜東海大学医学部付属病院＞
東海大学医学部付属病院とも、様々な形で歴史的な連携関係が確立しています。
定期的に初期研修における地域医療研修を諏訪中央病院で受け入れており、平成 20 年度から平成 28 年度までに 31 名の初期研修医受け入れ実績があります。そのうち平成 28 年度までに 4 名が当院で内科系後期研修を行っております。当院で後期研修を行った医師が再び東海大学医学部付属病院に勤務した実績もあります。
また、消化器内科が東海大学関連施設になることにより、諏訪医療圏での内科系診療を支えていただいております。東海大学病院、消化器内科に在籍した医師が当院常勤医師として勤務してくださっている実績もあります。
JR 中央東線特急列車を利用することにより約 3 時間で到達できる距離にあります。日帰りでの行き来が可能な交通事情です。

＜山梨県立中央病院＞
山梨県立中央病院は山梨県の中北医療圏に属し、中北医療圏は諏訪医療圏と接しております。中

北医療圏の内科専門医基幹施設申請予定病院は甲府市、中央市などに偏在しております。地理的な制約があるために、中北医療圏のなかでも北杜市などから諏訪中央病院に通院している患者さんも認められます。都道府県単位だけでは解決できない地域医療問題を抱える地域です。

山梨県立中央病院の初期研修医が当院で内科系後期研修医を行った実績があります。消化器内科、緩和ケア領域など医師が相互の病院を異動した実績もあります。このような医師の動きを背景に、山梨県立中央病院とはこの数年間、勉強会への講師派遣、初期・後期研修医の相互の勉強会参加などを通じて、協力関係を深めて参りました。この協力関係を今回の専門医制度を通じて更に深めることで、長野県諏訪医療圏と山梨県中北医療圏の境にある医師不足地域の医療を支えていくことを計画しています。

山梨県立中央病院は車で諏訪中央病院から約 1 時間の距離にある施設です。

＜山梨大学医学部附属病院＞

諏訪医療圏は長野県と山梨県の県境にあります。諏訪中央病院は山梨大学との連携も深めることにより諏訪医療圏の医療を守ってきました。山梨大学医学部附属病院は山梨県の中北医療圏に属し、中北医療圏は諏訪医療圏と接しております。中北医療圏の内科専門医基幹施設申請予定病院は甲府市、中央市などに偏在しております。地理的な制約があるために、中北医療圏のなかでも北杜市などから諏訪中央病院に通院している患者さんも認められます。都道府県単位だけでは解決できない地域医療問題を抱える地域です。

近接性があるために、脳血管内治療といった緊急性を要する疾患においても山梨大学から血管内治療医の派遣を受けております。また小児科、泌尿器科、脳外科、放射線科など他科も含めて、諏訪医療圏は山梨大学医学部附属病院に支えられております。

平成 17 年度から平成 28 年までに 4 名の初期研修医をたすきがけ研修として受け入れ、そのうち 1 名に関しては当院で内科系後期研修医を終え、現在当院の呼吸器内科に勤務しております。

山梨大学医学部附属病院は車で諏訪中央病院から約 1 時間の距離にある施設です。

＜東京女子医科大学病院＞

東京女子医科大学病院は関東の大学病院です。現在でも諏訪中央病院とは、特に循環器内科領域で協力関係にあります。具体的には不整脈治療などにおいて、定期的に東京女子医科大学から医師を派遣していただき、諏訪医療圏の循環器診療に貢献していただいております。

今後、内科専門医制度の中で当院の循環器内科領域の研修をより充実したものとするために、お互いが基幹施設となり、それぞれの連携施設となることを計画しています。

JR 中央東線の特急列車を利用することで 3 時間以内に到達できる距離にあります。今までの実績を鑑みても、医師、患者ともに日帰りでの行き来が可能な交通事情です。

＜千葉大学医学部附属病院＞

千葉大学医学部附属病院脳神経内科は 1978 年の教室開設以来、多くの専門医を育成し、先進的な研究がなされています。諏訪中央病院の医師も神経内科研修を修了した縁があります。臨床神経学各分野の専門スタッフが揃っており、親身で適切な指導が可能な体制が整備され、神経内科専門医育成のための効率的な専門医育成プログラムを実践しています。

地理的にはやや遠方にはなりますが、同じ関東甲信地域の病院であり、千葉駅から茅野(諏訪中央病院最寄り駅)間で直通運転の特急列車もあり、行き来には大きな問題を生じないと考えています。

＜佐久総合病院＞

同一県内の隣接する 2 次医療圏にある施設で、車で諏訪中央病院から約 1 時間の距離にあります。

佐久総合病院は、長野県東信地区で佐久医療圏の地域医療から東信地域の高度医療を担っています。研修医教育や専攻医（後期研修医）教育でも重要な役割を果たし、若手医師に研修の場を提供

してきました。当院と佐久総合病院は、相互の内科医師と研修中の医師が「環八ヶ岳クリニカルカンファレンス」や「感染症勉強会」を開催し、交流しながら共に学んでまいりました。総合診療と地域医療において、内科専門医として求められる総合的視点を身につけることを期待されます。

＜佐久総合病院佐久医療センター＞

佐久総合病院と同じく同一県内の隣接する 2 次医療圏にある施設です。

平成 26 年 3 月に開院し、佐久総合病院との機能分化が図られました。長野県東信地域の高度医療を担っています。専門医療・急性期医療の研修の場を提供し、1 次から 3 次までの診療を行う環境の下、内科専門医として求められる総合的視点を身につけることを期待されます。

＜松本協立病院＞

松本協立病院は同一県内の隣接する 2 次医療圏にある病院です。

諏訪中央病院と松本協立病院は特に循環器内科領域において交流のある病院です。平成 29 年度には当院内科専攻医が約 6 か月間、松本協立病院循環器内科で出向研修を行っております。

今後も特に循環器内科の領域において協力関係が必要となる病院であり今回内科専門医制度構築の上で、諏訪中央病院を基幹施設としたプログラムの連携施設となっていただくことになりました。

松本協立病院は車で諏訪中央病院から約 1 時間の距離にある施設です。

＜ひたちなか総合病院＞

ひたちなか総合病院は茨城県で常陸太田・ひたちなか二次医療圏の地域医療と高度医療を担っています。急性期から回復期までの一貫した医療を充実させて地域完結型医療を推進する取り組みは、当院と共通する理念であります。

筑波大学や東京医科歯科大学との連携の下、研修医教育や専攻医（後期研修医）教育において、質の高い教育を提供できる医師を招聘しています。教育・研修を充実させる取り組みの下、研修医教育や専攻医教育でも重要な役割を果たしています。

当院とひたちなか総合病院は、当院退職後の医師を通じて、相互の医師が「JMECC」や「教育回診」を通して交流し共に学んで参りました。隣接する水戸医療圏の病院や日立総合病院との連携もあり、内科専門医として求められる地域連携と高度医療を同時に身につけることが期待できます。

＜飯塚病院＞

飯塚病院は、福岡県の中央部に位置している飯塚市に約 100 年前に開設された総合病院です。長い歴史の中で「地域住民のために良医を招き、治療投薬の万全を図る。」という精神の下、最良の医療を提供されています。

隣接する桂川町や嘉麻市を含む飯塚医療圏の拠点病院であり、様々な施設認定も受けています。卒後研修にも力を注ぎ、屋根瓦方式で教育するシステムは当院と共通します。

当院と飯塚病院は総合内科医の育成において、相互の医師が「教育回診」を通して 10 年以上前から交流し共に学んで参りました。大学派遣医師で同門医師も多数在籍しております。豊富な症例数と優秀な指導医の下で志の高い若手医師が多く集まっており、同期医師達と切磋琢磨して研修に取り組むことで、学びをより豊かなものとすることが期待できます。

＜北野病院＞

北野病院は 1928 年に大阪市北区に開設された代表的な急性期総合病院のひとつであり、地域の病診・病病連携の中核としても質の高い医療を提供する一方で、「医学研究所」としての使命の下臨床研究や次世代の医療・医学を担う医療人の養成にも力を注がれています。

北野病院で研修した医師が当院に在籍し、また、当院で研修を修了した医師が北野病院に在籍する等、これまでも人的交流があります。今後も専門医養成や内科サブスペシャリティー研修の中で協力してゆく予定であり、高い専門性をもつ指導医と豊富な症例数を誇る北野病院での研修は、専

攻医にとって魅力的なものであります。

＜藤田医科大学病院＞
藤田医科大学病院は愛知県豊明市にある藤田医科大学の附属大学病院で、病床数は 1,435 床もあり、単一の病院として国内最多を誇ります。愛知県に 2 施設ある基幹災害医療センターの一つとして愛知県の災害医療の拠点の役割を果たすほか、特定機能病院その他の機能も有しています。
これまでも諏訪中央病院と藤田医科大学病院は交流の深い病院で、勉強会や教育回診のために医師の交流、往来が頻繁に行われてきました。現在でも藤田医科大学病院の先生を年 1～2 回程度お招きして教育回診を行って交流を深めています。また、藤田医科大学病院所属の初期臨床研修医も受け入れた実績もあります。

＜東京科学大学病院＞
東京科学大学病院は、東京都文京区にある医療機関であり、国立大学法人東京医科歯科大学設置の大学病院である。2021 年 10 月より、医学部附属病院と歯学部附属病院が統合の上、「東京医科歯科大学病院」となり、2024 年 10 月より「東京科学大学病院」となった。
医歯総合を目標にした臨床研究などが盛んに行われている都内唯一の国立大学病院である難治性疾患（広い意味での難病、特に悪性腫瘍、神経難病、循環器疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患遺伝性疾患、生活習慣病）の診断・治療を得意とし、新たな治療法の開発などにも取り組んでいます。

＜多摩総合医療センター＞
府中市域の最北西端かつ最高標高地近く、国分寺断崖の上面台地にある武蔵台の雑木林に覆われた自然が多い場所に位置し、多摩地域の都立病院として重要な位置付けがされています。東京 ER の一つである「東京 ER・多摩」を併せ持つ大規模総合病院である。診療内容はほぼすべての領域を網羅しているが、難病と急性期の患者の措置を中心としており、年間の救急車による搬送数は 9000 件を超えます。

＜堺市立総合医療センター＞
堺市立総合医療センターは、大阪府堺市の中核病院として、90 年以上にわたって市民の皆様の生命と健康を支えてきました。そして、2015 年 7 月に移転し、それに伴い開設したのが、3 次救急を担う救急救命センターです。堺市は人口 84 万人を抱える大阪第 2 の政令指定都市ですが、これまで救急救命センターがなく、3 次救急の患者さんは近隣市の救命センターに搬送されていました。今回、センターを開設したことで、市内で 1 次から 3 次までの救急医療が完結できるようになりました。これと同時に、子供の夜間休日における初期救急に対応する「堺市こども急病診療センター」が隣接し救急隊・救急車が常駐する「堺市消防局救急ワークステーション」も併設しました。現在、当院への救急搬送は年間約 9000 件におよび、堺市の救急ネットワークの中心としての役割を果たしています。また、診療科目に「心臓血管外科」を新設したことで主要な診療科が揃い、ハイブリッド手術室や高性能リニアックをはじめとする最新鋭の医療機器も導入しました。さらに、救急医療とともにがんや脳卒中・急性心筋梗塞などに対応する高度専門医療も診療の軸として取り組んでいます。

＜中部ろうさい病院＞
中部ろうさい病院は、名古屋市南部地域のセンター病院として、勤労者や地域住民の医療需要に応じた高度な医療を提供するため、高度医療機器の整備・充実を図るとともに診療体制の充実・強化に努めています。中でも、中高年労働者の健康対策として、三大成人病である脳卒中や心臓病の要因でもある糖尿病について、東海地区では最初に「糖尿病センター」を設置し、予防から治療ま

での一貫した管理を行い、着実に成果をあげています。
　また、当院は、東海地区随一の規模を誇るリハビリテーション施設を有し、整形外科と連携して、東海地方の脊椎、脊髄損傷のセンター的役割を果たし、多くの患者の社会復帰に貢献しています。

＜亀田総合病院＞
　亀田総合病院は、亀田メディカルセンターの中核として機能する施設です。千葉県南部の基幹病院として、優れた人材、高精度機器を導入・駆使し、急性期医療を担っており、集中治療部門（ICU、CCU、ECU、 NCU、NICU）を整備し急性期高度医療の提供に力を注いでいます。
　また、診療部門も含めた医療サービス全般にわたる ISO9001 の認証など医療の質の向上に全力で取り組んでいます。
　1995 年より世界に先駆けて電子カルテシステムの本格運用を開始した実績を持ち、中でも医療における徹底した情報活用を推進する国内でも希有の存在として知られています。

＜トヨタ記念病院＞
　トヨタ記念病院は、愛知県豊田市にある医療機関。トヨタ自動車（メディカルサポート部）が運営する企業立病院である。地域周産期母子医療センター、救命救急センターなどの機能を有する。

＜東京医科大学病院＞
　東京医科大学病院は、学校法人東京医科大学が運営する大学病院で、904 床の入院病床数を有し、新宿副都心に位置している。また、特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院、東京都災害拠点中核病院に指定されている。

＜今村総合病院＞
　今村総合病院は鹿児島市鴨池新町の総合病院です。「医療の原点は慈愛にあり」の理念に基づき、24 時間 365 日体制で充実した救急医療と高度専門医療を提供している。

＜前橋赤十字病院＞
1913 年に開院した 100 年以上の歴史を有する群馬県の基幹病院の一つである。県内で唯一の高度救命救急センターを有し、群馬県ドクターヘリの基地病院となっており、群馬県の高度急性期・救急医療を担っている。2022 年 3 月 31 日現在、病床数 555 床（一般病床 527 床、感染症病床 6 床、精神病床 22 床）である。

＜昭和医科大学病院＞
東京都品川区に位置する大学附属の特定機能病院で、高度な医療と専門的治療を提供しています。呼吸器・循環器・消化器などの専門センターや総合周産期母子医療センター、がんゲノム医療センターを備え、チーム医療による質の高い診療が特徴です。災害拠点病院やがん診療連携拠点病院にも指定され、地域と連携した医療体制を整えています。教育・研究機関として医療人育成にも力を入れています。

＜大阪市立総合医療センター＞
大阪市都島区にある 1,000 床超の大規模な公立病院で、高度急性期医療を担う中核施設です。三次救急をはじめ、がん診療、小児・周産期医療、AYA 世代（思春期・若年成人）支援など多様な専門医療を提供。手術支援ロボットやゲノム医療など先進医療にも対応し、災害拠点病院・感染症指定医療機関として地域医療の要となっています。教育・研修体制も充実しています。

＜水戸協同病院＞
2009 年に筑波大学との連携による新しい地域医療モデルを開始し、大学教員が常勤医師として診療・教育に携わっています。一般病床 369 床を備え、救急医療、高度専門医療、周産期医療など幅広い分野に対応する総合病院として地域医療を支えています。また、医学生や研修医の教育にも力を入れ、「心のこもった良質な医療の提供」を理念に、地域住民に信頼される医療機関を目指しています。

＜一宮西病院＞
愛知県一宮市に位置する総合病院で、社会医療法人杏嶺会が運営しています。急性期医療を中心に、高度専門医療や救急医療、地域医療支援に力を入れており、24 時間体制で地域住民の健康を支えています。病床数は 800 床を超え、心臓血管センターやがん治療センター、周産期母子医療センターなど専門性の高い診療体制を整備しています。また、最新の医療機器や高度な手術支援システムを導入し、安全で質の高い医療提供を目指しています。教育・研修体制も充実しており、多職種連携を重視したチーム医療を推進する地域中核病院です。

＜東京ベイ市川浦安医療センター＞
葉県浦安市に位置する地域中核病院で、地域住民に質の高い急性期医療を提供することを目的に設立されました。救急医療に特に力を入れており、24 時間 365 日体制で救急患者を受け入れる三次救急機能を担っています。内科、外科、小児科、産婦人科など幅広い診療科を備え、高度専門医療にも対応しています。また、チーム医療や臨床教育を重視し、研修医教育や多職種連携にも積極的に取り組んでいます。地域医療機関との連携を強化しながら、「患者中心の医療」を理念に、安全で信頼される医療提供を目指している病院です。

＜国保依田窪病院＞
長野県小県郡長和町に位置する地域密着型の公立病院で、依田窪地域の中核医療機関として住民の健康を支えています。内科、外科、小児科、整形外科など幅広い診療科を備え、急性期医療から慢性期医療、在宅医療まで一貫した医療サービスを提供しています。高齢化が進む地域に対応するため、介護施設や訪問看護との連携を重視し、地域包括ケアの推進にも積極的に取り組んでいます。また、救急医療体制の整備や予防医療活動にも力を入れ、地域住民が安心して暮らせる医療環境づくりを目指しています。

（1）専門研修基幹施設【整備基準 23、31】

組合立諏訪中央病院

認定基準 1)専攻医の環境	･医師臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･組合立諏訪中央病院の会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課庶務係）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 14 名在籍しています。（2025 年度時点） ･内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：各 2 回）して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績：5 回）して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型カンファレンス（病院・開業医合同勉強会『二水会』（例年 4 回開催、2024 年度は感染対策のため中止）、地域合同カンファレンス（例年 4 回開催、2024 年度は感染対策のため中止））を定期的に開催して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（内科ケースカンファレンス）を定期的に開催して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 体、2024 年度　5 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ･倫理委員会を設置/開催しています。 ･臨床研修・研究センターを設置して研究に関するとりまとめを行っています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	若林 禎正 【内科専攻医へのメッセージ】 患者のどのような訴えにも耳を傾け、その原因となる疾患を明らかにし、専門治療が必要な場合には迅速に専門医へ紹介する能力を養います。先進医療だけではなく、回復期リハビリ病棟でのケアや慢性疾患に対する外来診療、通院ができない場合には訪問診療・往診をし、シームレスで患者や家族の生活に寄り添う医療を行います。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本感染症学会感染症専門医 2 名　　他
外来・入院患者数	外来患者 17,040 名（全科 1 ヶ月平均）（令和 5 年度実績） 入院患者 575 名（全科 1 ヶ月平均）（令和 5 年度実績）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療専門研修プログラム施設 日本東洋医学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会・ＮＳＴ稼動施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本在宅医学会認定在宅医療研修プログラム施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本臨床神経生理学会準教育施設　　他

（2）専門研修連携施設【整備基準 24、31】

1.　総合病院国保旭中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･法人職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 31 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 21 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2019 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうち全疾患群（少なくても 60 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 71 体、2018 年度実績 71 体、2017 年度実績 89 体、2016 年度実績 80 体、2015 年度実績 89 体、2014 年度実績 80 体、2013 年度 90 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019 年度実績 6 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2019 年度実績 9 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 12 演題）をしています。
指導責任者	塩尻　俊明 【内科専攻医へのメッセージ】 ･旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。 ･高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約 45,000 人の患者が来院し、24 時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数 300 床で年間約 8000 人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2019 年度は 71 体に及び、毎月 CPC が開催されています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）4 名、

	日本リウマチ学会専門医３名、日本糖尿病学会専門医２名、 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医１名、日本老年病学会専門医１名、 日本感染症学会感染症専門医１名ほか
外来・入院患者数	外来患者 14,262 名（1ヶ月平均）　入院患者 681 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定准教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

2. 信州大学医学部附属病院

認定基準 1)専攻医の環境 【整備基準24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・信州大学附属病院常勤医師（医員）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康安全センター）があります。 ・ハラスメント委員会が信州大学内に常設されています。 ・全ての専攻医が安心して勤務できるように、各医局に更衣室、シャワー室、当直室などが整備されています。 ・各医局には専攻医の机が配置されており、ネット環境を利用できます。 ・信州大学内に院内保育所があります。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境 【整備基準24】	・指導医は97名在籍しています。（変動あり） ・研修プログラム管理委員会が設置され、統括責任者、副責任者とプログラム管理者がこれを運営し、専攻医の研修について責任を持って管理します。また、専攻医の研修を直接管理する研修委員会（各内科医局から２～３名ずつ選出）が置かれています。これらの組織によって、各基幹施設に設置されているプログラム管理委員会と連携をはかります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年間平均：医療倫理1回、医療安全20テーマで計60回、感染対策4テーマで計50回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講するための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2019年度実績10回（内科系のみ））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（年間平均：総合診療科のオープン型カンファレンス 160回、キャンサーボード 12回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（年間開催実績1～2回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境 【整備基準24】	・カリキュラムに示す内科領域全13分野につき、定常的に専門研修が可能です。 ・カリキュラムに示す全70疾患群につき、研修が可能です。 ・専門研修に必要な剖検（2019年度実績：内科剖検数18体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境 【整備基準24】	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計20演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に毎月開催しています。
指導責任者	関島　良樹 【内科専攻医へのメッセージ】 信州大学医学部附属病院は，長野県の中心的な急性期病院であり，全ての内科領域の専門的かつ高度な医療の研修を実践することができます。また，総合診療科や難病診療センターで訪問診療を含めた地域医療を研修することも可能です。大学内の様々な分野の専門家・多くの指導医・同僚・後輩医師と接することにより，きっと理想とする内科の医師像を見つけられると思います。当院では，高い倫理観の元に患者さんに幅広い人間性をもって対応できる内科専門医，また，プロフェッショナリズムとリサーチマインドを持ち医学の進歩に貢献できる内科専門医の育成を目指しています。松本の雄大な自然の中で，私たちと一緒に理想の医療を実践しましょう！

指導医数(常勤医) ＊変動あり	日本内科学会指導医 97 名、日本内科学会総合内科専門医 46 名、消化器病学会専門医 13 名、循環器学会専門医 15 名、内分泌学会専門医 7 名、腎臓病学会専門医 9 名、呼吸器学会専門医 15 名、血液学会専門医 7 名、神経学会専門医 14 名、アレルギー学会専門医 1 名、リウマチ学会専門医 5 名、感染症学会 2 名、糖尿病学会専門医 9 名、老年医学会専門医 3 名、肝臓学会専門医 5 名　ほか
外来･入院患者数	外来患者 9,232 名（1 ヶ月平均）　入院患者数 444 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群すべての研修が可能です。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療･診療連携	総合診療科、難病診療センターでは、訪問診療を含めた地域医療を経験することができます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本内科学会認定専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本感染症学会研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本アフェレシス学会認定施設、日本血液学会認定研修施設、非血縁者間骨髄採取認定施設、非血縁者間骨髄移植認定施設、非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設、非血縁者間末梢血幹細胞移植認定施設、日本神経学会認定専門医教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、特定非営利活動法人日本呼吸器内視鏡学会認定施設、一般社団法人日本アレルギー学会、一般社団法人日本禁煙学会認定施設、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医教育病院、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本透析医学会認定施設、腎臓移植施設、救急科専門医認定施設、日本集中治療医学会専門医研修認定施設、日本航空医療学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院

3. 諏訪赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･日本赤十字社常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課にメンタルヘルスケアサポートチーム）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 17 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのため

	の時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2020 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2020 年度自施設での開催実績なし）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·特別連携施設（辰野病院、こやま乳腺・甲状腺クリニック）の専門研修では、電話や週 1 回の諏訪赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2018 年度 10 体、2019 年度 3 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	諏訪赤十字病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、 ① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。 ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。 ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。 ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。 ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。 を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。 内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。 なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、諏訪赤十字病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	進士　明宏 【内科専攻医へのメッセージ】 諏訪赤十字病院は、長野県諏訪医療圏の中心的な急性期病院であり、諏訪医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1 名、内科学会認定内科医 30 名、 日本内科学会総合内科専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 17,579 名（1 ヶ月平均）　入院患者 940 名（1 ヶ月平均実数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。諏訪赤十字病院内科施設群専門研修では、症例をある時

	点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で診断・治療に一貫してかかわることで、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・退院後を視野に療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て、コメディカルと一致団結して実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。諏訪赤十字病院は、長野県諏訪医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験が可能で、成書の通読のみでは得られない実臨床の経験を多数積むことが可能です。また、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医教育病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会専門医研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会専門医認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本がん治療認定医機構認定医研修施設 など

4. 聖路加国際病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・聖路加国際病院内科専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が聖路加国際病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・総合内科専門医が 44 名、内科指導医が 55 名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で、定常的に専門研修が可能な症例数があり、70 疾患群のほぼ全疾患群の研修が可能です。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に、年間で計 1 演題以上（年間約 10 演題）の学会発表をしています。
指導責任者	長浜正彦 【内科専攻医へのメッセージ】 聖路加国際病院の内科専門研修で育成する医師は、将来どのような内科系 subspecialty を専攻するにしても、総合内科のあらゆる臨床的問題に対応できる知識・技能・態度を身につけた generalist です。聖路加の理念の体得によって愛の心をもち、患者・家族の価値観に配慮しながら、医療チームの一員として質の高い医療を実践できる医師です。 地域研修として貴院から当院に研修に来ていただく場合は内科混合病棟でなく各専門科研修となります。各科の特色は別資料があるので参照ください。
指導医数（常勤医）	指導医が 55 名在籍しています。
外来・入院患者数	外来患者年間約 19 万人　入院患者年間約 6 万人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会アレルギー専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設(ICU) 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化器病学会　認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設認定 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本心身医学認定医制度研修診療施設（心療内科） 日本神経学会専門医制度における教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定医制度認定施設、日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設 日本臨床腫瘍学会　認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設認定証 日本脳ドック学会　認定施設 小児血液・がん専門医研修施設 日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会　不整脈専門医研修施設 日本呼吸療法医学会　専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設・非血縁者間骨髄移植認定施設 日本心身医学会 研修診療施設認定証（精神腫瘍科） 日本消化管学会　胃腸科指導施設 日本頭痛学会　教育関連施設　　など

5. 東海大学医学部付属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東海大学医学部付属病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・ハラスメント委員会が東海大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 92 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2019 年度実績 4 演題)をしています。
指導責任者	深川雅史 【内科専攻医へのメッセージ】 東海大学医学部付属病院は、特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院として様々な高度医療を提供すると同時に、高度救命救急センター・大規模集中治療室を有し、広域救急搬送システムである神奈川県ドクターヘリの運用医療機関でもあります。大学病院ならではの高度専門医療と内科全般的医療を同時に経験でき、専攻医の多様な希望を満し得るプログラムを準備しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 92 名、日本内科学会総合内科専門医 64 名 日本消化器病学会消化器専門医 14 名、日本肝臓学会専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 17 名、日本内分泌学会専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 11 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 13 名、 日本神経学会神経内科専門医 9 名、日本アレルギー学会専門医(内科)5 名、 日本リウマチ学会専門医 6 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 55, 547 名(1 ヶ月平均)　入院患者 23, 647 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会指導医・専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本リウマチ学会教育施設 臨床遺伝専門医認定研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 ステントグラフト実施施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本頭痛学会認定教育施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本睡眠学会睡眠医療認定医療機関 日本ヘリコバクター学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設

6.　富士見高原医療福祉センター　富士見高原病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度　協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ・ハラスメントへの体制も整備されています。（担当部署：総務課） ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が８名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与

	えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC も大学から教授を招き定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、神経、糖尿病、感染症をはじめとする急性期疾患症例の経験が可能で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	矢澤　正信 【内科専攻医へのメッセージ】 　富士見高原医療福祉センターは当該の地域において急性期救急から回復期までの地域医療を担う富士見高原病院を中核として、4 附属診療所、3 訪問看護ステーション及び 4 老人保健施設による在宅療養支援と 2 特別養護老人ホーム及び 1 グループホームによる施設入所療養支援を提供している。病院においては消化器、神経、糖尿病、感染症をはじめとする幅広い急性期疾患症例の経験が可能であるだけでなく、入院治療後の生活の場における医療提供も体験できる。これにより内科疾病の全人的な総合内科的対応を身につけることができ、内科専門医研修における地域医療分野での専攻医としての技量を獲得することを目的とする。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医５名、日本内科学会総合内科専門医３名 日本消化器病学会消化器専門医１名、 日本神経学会神経内科専門医４名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,344 名（1ヶ月平均）　入院患者 2,829 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本消化器内規鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設など

7. 山梨県立中央病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･地方独立法人山梨県立病院機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。 ･ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

認定基準 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は20名在籍しています（下記）。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（梅谷健循環器病センター統括部長）、プログラム管理者（梅谷健統括部長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職員研修センターを設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染管理講習会を定期的に開催（2019 年度実績：医療倫理 6 回、医療安全 17 回、感染管理 14 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2019 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設：MSGR：Medical Surgical Grand Round、キャンサーボード、バスキュラーボード、地域連携研修会、緩和ケア勉強会、特別講演会；2019 年度実績 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に職員研修センターが対応します。 ·特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の山梨県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうち神経内科領域を除く全疾患群について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 6 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019 年度実績 3 回）しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2019 年度実績 10 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	梅谷　健 【内科専攻医へのメッセージ】 山梨県立中央病院では、二次救急を担当する市中病院として common disease を数多く経験することができる一方、臓器別のサブスペシャリティー領域に支えられた高度な急性期医療も経験することができます。救命救急センター、周産期医療センター、がんセンターをはじめとする、数々の県センター機能を担っており、重症疾患や難治性疾患も経験することができます。 主担当医として、入院から退院までの診断・治療の全経過を、責任を持って担当することにより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になっていただきたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 24,240 名（1 ヶ月平均）　入院患者 15,159 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修指定施設 日本透析医学会研修認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会研修施設 日本神経学会認定教育教育施設 など

8. 山梨大学医学部附属病院

1)専攻医の環境	○初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ○研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ○山梨大学医学部附属病院医員として労務環境が保障されています。 ○メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ○ハラスメント委員会が山梨大学に整備されています。 ○女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ○敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	○指導医が　63名在籍しています（下記）. ○内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ○医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績　医療安全 12回，感染対策 4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ○研修施設群合同カンファレンス（2020年実績 1回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ○CPC を定期的に開催（2019年度実績 10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ○地域参加型のカンファレンス（2020年実績 1回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常

	的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表（2019年度実績　5演題）をしています.
責任者	瀧山　嘉久 【内科専攻医へのメッセージ】 山梨大学医学部附属病院は，山梨県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　17名，日本内科学会総合内科専門医　38名 日本消化器病学会消化器専門医　22名，日本循環器学会循環器専門医　9名， 日本内分泌学会専門医　6名，日本糖尿病学会専門医　7名， 日本腎臓病学会専門医　4名，日本呼吸器学会呼吸器専門医　3名， 日本血液学会血液専門医　5名，日本血液学会血液指導医　2名，日本神経学会神経内科専門医　7名， 日本リウマチ学会専門医　2名，日本感染症学会専門医　1名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 27,154名（1ヶ月平均）　入院患者 15,688名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本老年医学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本血液学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 など

9. 東京女子医科大学病院

認定基準 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·適切な労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等が整備されています。 ·敷地内に院内保育所が設置されています。また、育児、介護における短時間勤務制度及び看護、介護休暇を導入しております。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 67 名在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	川名　正敏 【内科専攻医へのメッセージ】 東京女子医科大学病院の大きな特徴は高度先進医療を担う診療科が揃っており、充実した診療科と優秀な指導医による研修システムが可能なことです。外来、入院患者数および手術件数等は国内トップクラスであり、他の医療施設では経験できないような臨床症例も多く、診療および研究能力を高めるためには最高の研修病院であります。 より良い研修を行えるよう、スタッフ一同努力しています。誠実で慈しむ心を持ち、意欲に満ちた若い人たちを心よりお待ちしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 67 名、日本内科学会認定内科医 146 名、日本内科学会総合内科専門医 67 名、日本消化器病学会消化器専門医 25 名、日本肝臓学会専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 28 名、日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 16 名、日本腎臓学会専門医 15 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 11 名、日本神経学会専門医 16 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 9 名、日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 3,224 名/日（2020 年）　入院患者 812 名/日（2020 年）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある全領域、すべての疾患群を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	Subspecialty 分野に支えられた高度な急性期医療、多岐にわたる疾患群の診療を経験し、地域の実情に応じたコモンディジーズに対する診療を経験することができます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本アレルギー学会認定専門医教育研修施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会認定施設、日本血液学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本感染症学会認定研修施設、日本神経学会認定教育施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本病理学会認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設　他

10. 千葉大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･研修に必要なインターネット環境があり、病院内で UpToDate などの医療情報サービスの他、多数の e ジャーナルを閲覧できます。敷地内に図書館があります。 ･労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に保育所があり、病児保育も行っています。院内に学童保育園があります。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 86 名在籍しています。（2018 年 3 月現在） ･内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC およびキャンサーボードを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全ての疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な設備として、敷地内に図書館がある他、各診療科にも主要図書・雑誌が配架されています。多数の e ジャーナルの閲覧ができます。 ･臨床研究に関する倫理的な審査は倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。倫理委員会のメンバーは内部職員および外部職員より構成されています。 ･専攻医は日本内科学会講演会あるいは同地方会の発表の他，内科関連サブスペシャリティー学会の総会，地方会の学会参加・発表を行います。また，症例報告，論文の執筆も可能です。

指導責任者	桑原　聡（脳神経内科長・教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 千葉大学病院には，臨床医学の各分野において卓越した専門医を育成してきた伝統があります。本院では、内科系各専門分野にわたる豊富な症例と充実した指導医のもと，基本的診療と先進医療双方の実践を通じて，専門研修で修得すべき能力を身に付けることができます。本院の研修ではエビデンスに基づいた医療と基本的な診療能力の修得を重視しています。さらに，常に患者さんの立場に立って診療を行うことができるHumanityも重要です。自分自身を絶えず見つめなおし，患者さん，看護師，仲間，先輩など，いろいろな人達から学び・教えあうことで，ともに成長していくことが本院の研修目標です。我々は専攻医が診療を通して自己を磨き，成長していくことをサポートします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 86 名，日本内科学会総合内科専門医 47 名、日本消化器病学会消化器専門医 13 名，日本肝臓学会肝臓専門医 8 名、 日本循環器学会循環器専門医14名，日本内分泌学会専門医6名，日本腎臓病学会専門医1名，日本糖尿病学会専門医11名，日本呼吸器学会呼吸器専門医17名，日本血液学会血液専門医7名，日本神経学会神経内科専門医10名，日本アレルギー学会専門医（内科）4名，日本リウマチ学会専門医7名，日本感染症学会専門医3名，日本老年医学会専門医2名、ほか （2017年3月現在）
外来・入院患者数	内科外来患者172,991 名/年　内科入院患者　 5,874名/年
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本老年医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 ステントグラフト実施施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　など

11. 佐久総合病院

1)専攻医の環境 【整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・長野県厚生連勤務医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・指導医は 10 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（佐久医師会勉強会、Subspecialty 研究会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、神経の分野で定常的に専門研修が可能なほか、その他の分野の症例も経験できます。
4)学術活動の環境 【整備基準 24】	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究・治験センターを設置し、定期的に研究審査委員会を開催しています。
指導責任者	統括内科部長　高松　正人

指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本透析医学会透析専門医 1 名、日本超音波医学会超音波専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名　ほか
外来･入院患者数	外来患者 7,836 名（1 ヶ月平均）　入院患者 142 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	13 領域、70 疾患群のうち、総合内科、神経、内分泌、代謝、腎臓の各分野の診療を経験することができます。歴史ある地域に根ざした病院であり、全人的医療を実践する場です。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療･診療連携	慢性期疾患や在宅医療、健康管理などの地域に根ざした医療や病病･病診連携のみならず、介護福祉連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本消化器病学会関連施設、日本神経学会准教育施設、日本透析医学会教育関連施設、日本超音波医学会研修施設、日本心血管インターベンション学会関連施設、日本プライマリ･ケア連合学会病院総合医養成プログラム認定　ほか

12. 佐久総合病院佐久医療センター

1)専攻医の環境 【整備基準 23】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・長野県厚生連勤務医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境 【整備基準 23】	・指導医は 29 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会（研修委員会を兼ねる）を設置します。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（佐久医師会勉強会、Subspecialty 研究会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修管理委員会が対応します。
3)診療経験の環境 【整備基準 23・31】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境 【整備基準 23】	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究･治験センターを設置し、定期的に研究審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	副院長 兼 統括内科部長　矢﨑　善一
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会糖尿病専門

	医２名、日本腎臓病学会腎臓専門医５名、日本血液学会血液専門医３名、日本肝臓学会肝臓専門医２名、日本透析医学会透析専門医５名、日本超音波医学会超音波専門医２名、日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医８名、日本アレルギー学会専門医１名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医１名、日本救急医学会救急科専門医６名、日本呼吸器学会呼吸器１名、呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医２名　ほか
外来･入院患者数	外来患者 7,094 名（1 ヶ月平均）　入院患者 410 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療･診療連携	専門医療と救急･急性期医療に特化した地域医療支援病院として地域に根ざした医療や、病病･病診連携などが経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会特定地域関連施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本透析医学会教育関連施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本緩和医療学会、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会認定研修施設　ほか

13. 社会医療法人　中信勤労者医療協会　松本協立病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります。 ・松本協立病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室、更衣室、仮眠室、当直室等が整備されています。 ・病院近傍に病児保育施設があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が５名在籍しています。（下記） ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 24 回、医療倫理 1 回、感染対策 4 回）。し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2024年度実績　5病院連携カンファレンス2回、病診連携カンファレンス2回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2024年度2演題）をしています。
指導責任者	上島　邦彦（総合診療科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 松本協立病院は松本駅アルプス口に隣接する 199 床の急性期病院です。現在は松本市近郊の一次・二次医療から三次医療の一部を担っています。地域に根差し、地域に支えられ、

	地域に開かれた病院として、安心感・満足度の高い急性期医療を提供し続け、地域のニーズに応えられる内科専門医の育成を目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 13,227 名（1 ヶ月平均）　入院患者 374 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会・不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本アレルギー学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設

14. 日立製作所ひたちなか総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室（契約電子図書）とインターネット環境があります. ・日立製作所の契約社員としての労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士が担当）があります. ・ハラスメント相談部門が院内に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は8名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会を設置しています. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群や地域の合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・その他、キャンサーボード（週 1 回）,内科カンファレンス（週 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名・JMECC ディレクター在籍）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に教育・研修係と内科専門研修管理委員会が対応します. ・特別連携施設の専門研修では，ZOOM 等を用いた Web 面談やカンファレンスへの参加などにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 領域のうち 9 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しており，定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2025 年実績 4 体，2023 年 15 体）を行っています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室（契約電子図書）などを整備しています. ・(株)日立製作所病院統括本部合同で倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 14 演題）をしています.
指導責任者	山内孝義 【内科専攻医へのメッセージ】 日立製作所ひたちなか総合病院は，茨城県常陸太田・ひたちなか医療圏，唯一の総合病院であり、地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院として地域医療を支えながら多様な症例を経験できます．また、様々な手技も数多く学べます。初期研修医も多く在籍し活気があります。常陸太田・ひたちなか医療圏，近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と協力して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医をめざします．また、症例を掘り下げて検討し、臨床研究、CPC などを通じてリサーチマインドを要請します 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.

指導医数 （常勤内科医）	日本内科学会指導医８名・認定医 14 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名， JMECC ディレクター1 名・インストラクター2 名 日本プライマリ・ケア連合学会指導医１名・認定医１名 日本リウマチ学会指導医１名、専門医１名、日本呼吸器学会専門医１名， 日本循環器学会指導医１名、専門医３名， 日本心血管インターベンション治療学会指導医１名、専門医１名・認定医１名， 日本神経学会指導医２名・専門医２名，日本認知症学会指導医２名・専門医２名 日本消化器病学会専門医４名，日本消化器内視鏡学会指導医１名・専門医４名， 日本肝臓学会専門医２名，日本腎臓学会指導医２名・専門医３名， 日本透析医学会指導医１名・専門医３名， 日本糖尿病学会専門医１名,日本救急医学会専門医１名、日本集中治療医学会専門医１名 日本病院総合診療医学会指導医１名・認定医１名 日本認知症学会専門医２名、指導医２名 臨床研修指導医養成講習会修了 15 名（内科）
外来・入院　患者数	外来患者　11,488 名（1 ヶ月平均延べ）　　入院患者 7,291 名（年間実患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会施設群連携施設 日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会準教育施設 日本認知症学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 など

15. 飯塚病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN、Wi-Fi）があります。 ● 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および看護師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。

認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は 40 名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績　医療倫理 5 回、医療安全 9 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2025 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村　健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
指導医数 （常勤医） ［2026 年度］	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器病専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数 ［2025 年度実績］	外来患者 33,100 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,853 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設

	日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 日本臨床栄養代謝学会認定稼働施設 など

16. 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、 Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE)、CiNii （NII 学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・院内には職員食堂があり、宿日直時は食事補助があります。（昼食・夜食：弁当支給、朝食：院内のコーヒーショップの食券を配布） ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・休憩室、更衣室、当直室を整備しています。 ・院内保育所があり、病児保育も利用可能です。院内保育所利用者に限り自動車通勤が可能です。

認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は１３名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北野　俊行 【内科専攻医へのメッセージ】 北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	内科指導医１３名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器病専門医４名、日本肝臓学会肝臓専門医２名、日本消化器内視鏡学会専門医４名、日本循環器学会循環器専門医７名、日本糖尿病学会専門医４名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医２名、日本腎臓病学会専門医４名、日本透析医学会専門医４名、日本呼吸器学会呼吸器専門医５名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医５名、日本血液学会血液専門医５名、日本神経学会神経内科専門医５名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医３名、日本感染症学会専門医１名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医３名など
外来・入院患者数	外来：1,641.8 名（全科１日平均：2025 年度実績） 入院：200,616 名（全科 2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内	日本内科学会認定医制度教育病院

科系)	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

17. 藤田医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 54 名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019 年度実績 14 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019 年度実績 20 回）
認定基準 【整備基 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2019 年度実績 25 演題）

指導責任者	湯澤　由紀夫 【内科専攻医へのメッセージ】 藤田医科大学病院には 13 の内科系診療科（救急総合内科,循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化器内科Ⅰ、消化器内科Ⅱ、血液内科・化学療法科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、臨床腫瘍科、脳神経内科、認知症・高齢診療科、感染症科）があり,内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。また，救急疾患は救命救急センター（NCU,CCU,救命 ICU,GICU,ER,災害外傷センター）および各診療科のサポートによって管理されており，大学病院、特定機能病院としての専門的高度先進医療から尾張東部医療圏の中核病院としての一般臨床、救急医療まで幅広い症例を経験することが可能です。院内では各科のカンファレンスも充実しており、またキャンサーボードなど多職種合同検討会やアレルギー研究会など科を越えた勉強会検討会も数多く実施しております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　54 名 日本内科学会総合内科専門医　55 名 日本消化器病学会消化器専門医　33 名 日本循環器学会循環器専門医　15 名 日本内分泌学会専門医　6 名 日本糖尿病学会専門医　8 名 日本腎臓病学会専門医　12 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　12 名 日本血液学会血液専門医　12 名 日本神経学会神経内科専門医　6 名 日本アレルギー学会専門医（内科）　5 名 日本リウマチ学会専門医　13 名 日本感染症学会専門医　6 名 日本救急医学会救急科専門医　12 名
外来・入院患者数	外来患者　3,291.0 名（1 日平均）、入院患者　1,314.4 名（2019 年度 1 日平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設

	日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ＩＣＤ/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

18. 東京科学大学病院

認定基準 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従います。 ・メンタルストレスに適切に対処する部門として保健管理センターが設置されています。 ・ハラスメント防止対策委員会が設置され、各部に苦情相談員が置かれています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・学内の保育園（わくわく保育園）が利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 135 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2020 年度開催実績４回内科系のみ） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できます。
認定基準 4)学術活動の環境	・東京医科歯科大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能です。 ・臨床倫理委員会が設置されています。 ・臨床試験管理センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 12 題の学会発表を行っています。（2020 年度実績） ・内科系学会等で年間 190 題の学会発表を行っています。（2020 年度実績）
指導責任者	具　芳明 【内科専攻医へのメッセージ】 東京医科歯科大学内科は、日本有数の初期研修プログラムとシームレスに連携して、毎年 70～100 名の内科後期研修医を受け入れてきました。東京および周辺県の関連病院と連携

	して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。 新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成する体制を構築しました。
指導医数 （常勤医）	135 名
外来・入院患者数	外来患者数：443,684 人（総数 旧医学部附属病院実績） 入院患者数：167,662 人（総数 旧医学部附属病院実績）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本老年医学会認定施設 日本老年精神医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本神経学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 認知症学会専門医教育施設

19. 多摩総合医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課医事課、職員担当、医局役員)がある。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整

	備されている。・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は40名在籍している(2019年3月)。・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、プログラム統括責任者・ 副プログラム統括責任者（ともに内科系診療科部医長各1名）、基幹施設内科専 門研修委員長(内科系診療科部医長1名)（4名ともに総合内科専門医かつ指導 医)）・内科専門研修プログラム委員会は､基幹施設､連携施設に設置されている研修 委員会との連携を図る。・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を 臨床研修管理委員会に設置する。・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2017 年度実績 13 回)し、専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。・CPC を定期的に開催(2017 年度実績 10 回)し､専攻医に受講を義務付け､そのた めの時間的余裕を与える。・多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的 に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。・プログラムに所属する全専攻医に研修期間中のJMECC受講(2017年度開催実績2回:受講者20名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では､電話やメールでの面談･Web 会議シ ステムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。・その結果 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)につい て研修できる(上記)。・専門研修に必要な剖検(2015 年度実績42体､2016年度28体、2017年度32体)を行っている。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。・倫理委員会を設置し､定期的に開催(2017 年度実績 12 回)している。・治験管理室を設置し､定期的に治験審査委員会を開催(2017年度実績12回)している。・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をし ている(2017年度実績9演題)。
指導責任者	島田浩太【内科専攻医へのメッセージ】 東京都立多摩総合医療センターは、 東京都多摩地区医療圏の中心的な急性期病院であり、内科の全領域での卓越し た指導医陣と豊富な症例数を誇り、東京 ER（救急外来と救命救急センター）で の救急医療も必修とし、総合内科的基盤と知識技能を有した専門医の育成を目 標としている。新制度においては、東京都多摩地区医療圏を中心とした連携施 設との交流を通じて地域医療の重要性と問題点を学び、また東京都島嶼にある 特別連携施設では僻地における地域医療にも貢献できる。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医41名、日本消化器病学会消化器病専門医12名、 日本肝臓学会肝臓専門医4名、日本循環器学会循環器専門医6名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医5名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医5名、 日本腎臓学会専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医9名、 日本血液学会血液専門医4名、日本神経学会神経内科専門医1名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医2名、日本リウマチ学会リウマチ専門医9名、日本感染症学会感染症専門医5名、日本救急医学会救急科専門医10名、 日本プライマリーケア連合学会指導医3名ほか
外来・入院患者数	外来患者430,133名、入院患者18,254名（平成28年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携、島嶼医療なども経験できる。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定JSH血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設 日本内分泌代謝科学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会研修施設など

20. 堺市立総合医療センター

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・堺市立総合医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するためヘルスケアサポートセンターを設置しています。 ・「地方独立行政法人堺市立病院機構ハラスメントの防止等に関する要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、内部統制室が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所、病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は32名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会において、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的に開催（2025年度実績eラーニング6回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025年度実績18症例）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2025年度実績４回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度自施設内開催実績１回）を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回の堺

	市立総合医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域のうち内分泌を除くほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績13体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、自習室、ソフトウエアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績12回）しています。 ・臨床研究推進室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2025年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には、14演題(2025年度)の学会発表をしています。
指導責任者	西田幸司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科の理念 1. 堺市二次医療圏の中核病院として急性期医療を担うことで地域医療に貢献する。 2. 優秀な内科医を育み、日本の医療に貢献する。 私が育てたい内科医は「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」です。自らの専門分野にとどまることなく、患者さんが抱えている問題を大きく把握し、優先順位を考えることで、その方に最適な医療を提供できる医師。それが、超高齢社会の日本で求められる内科医像だと考えます。そのためには、基礎的な内科力と総合的な判断力が必要です。当院では20年以上前から内科専攻医を受け入れ、ローテートシステムにより内科の土台作りを行ってきました。全国の「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」を目指す専攻医の皆さんとともに診療できる日を心待ちにしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 28 名、 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、 日本肝臓病学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、 日本透析医学会専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 4 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名、日本脳卒中学会専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者17,861名（平均延数／月）　新入院患者1,181名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本麻酔科学会認定病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会認定教育研修認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本IVR学会認定専門医修練認定施設 日本てんかん学会認定研修施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育研修認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設

21. 中部労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・中部労災病院嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・当機構において「ハラスメント防止規程」が定められており，相談員を 4 名配置し対応します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 27 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（ 2021 年度実績、医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2021 年度実績 9 回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2021 年度実績 37 回）
認定基準 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急）全てで定常的に専門

3)診療経験の環境	研修が可能な症例数を診療しています．内分泌，血液，アレルギー，救急は領域を横断的に研修します。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています． （2021 年度実績　4 演題　　内　優秀演題賞数　1）
指導責任者	原田　憲 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋市南部の急性期病院である中部ろうさい病院を基幹病院とするプログラムであり、主に名古屋市を中心とする名古屋大学関連連携施設群ならびに関東労災病院をはじめとする当院独自の連携施設を含め幅広い内科研修を可能とするプログラムを準備します。「総合力を持った専門医の養成」を目標におき、各専門科ローテーションに加えて、総合内科研修として内科新患外来を担当するとともに、外来症例カンファランス、研修医との症例検討会、外部講師による講演会参加などを通じて幅広く経験を共有する機会を設けておりますので、将来皆さんが目指す臨床医像を掴んでいただけると思います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名，日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 5 名，日本腎臓病学会専門医 6 名 日本呼吸器学会専門医 3 名，日本神経学会専門医 5 名 日本リウマチ学会専門医 5 名，日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医　1 名
外来・入院患者数	外来患者数　22，164 名（1 か月平均）　入院患者数 10,401 名（1 か月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院, 日本消化器病学会認定施設, 日本呼吸器学会認定施設, 日本糖尿病学会認定教育施設, 日本腎臓学会研修施設, 日本消化器内視鏡学会認定指導施設, 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設, 日本透析医学会認定医制度認定施設, 日本神経学会専門医制度認定教育施設, 日本脳卒中学会認定研修教育病院, 日本神経学会専門医研修施設, 日本内科学会認定専門医研修施設, 日本肥満学会認定肥満症専門病院, 日本感染症学会認定研修施設, 日本がん治療認定医機構認定研修施設, 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設

22. 亀田総合病院

認定基準	専攻医は常勤医として正規採用されます。各種社会保険、有給休暇、社宅などを整備

1)専攻医の環境	しています。専攻医の就労環境を整えることを重視し、労働基準法や医療法を遵守することを原則とします。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	日本内科学会 J-OSLER を用いて逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設で研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧できます。また集計結果に基づき、プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
認定基準 3)診療経験の環境	1学年20名の専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。 専攻医3年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも56疾患群、160症例以上の診療経験は達成可能です。
認定基準 4)学術活動の環境	①内科系学術集会や企画に年2回以上参加する（必須）。 ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 ③クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う。 ④内科学に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として2件以上行います。 なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	中路聡【内科専攻医へのメッセージ】 これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違います。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の実績があります。みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプログラムを終了するための研修を提供いたします。「自由と責任」「権利と義務」のもと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医として研修を行ってみませんか？ 内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院で一緒に働きましょう！
指導医数 （常勤医）	40名
外来・入院患者数	総入院患者(実数) ：22,798名 ・総外来患者(実数) ：742,853 名
経験できる疾患群	「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群の経験が可能
経験できる技術・技能	内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。
経験できる地域医療・診療連携	亀田総合病院内科専門研修施設群の研修施設は、千葉県安房医療圏、近隣医療圏、医療連携・研修連携を行ってきた神奈川県県央医療圏と福島県相双医療圏の医療機関、および、高齢化社会において高まる医療ニーズを担うがん・循環器病の専門医療機関から構成されています。

学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度における教育病院 ・日本消化器病学会認定施設・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設・日本呼吸器学会認定施設・日本血液学会認定血液研修施設・日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設・日本糖尿病学会認定教育施設・日本腎臓学会研修施設・日本肝臓学会認定施設・日本アレルギー学会認定教育施設（免疫アレルギー科・呼吸器アレルギー科）・日本感染症学会認定研修施設・日本老年医学会認定施設・日本神経学会専門医制度における教育施設・日本リウマチ学会教育施設・日本消化器内視鏡学会指導施設・日本東洋医学会指定研修施設（教育病院）・日本透析医学会認定施設・日本臨床腫瘍学会認定研修施設・日本アフェレシス学会認定施設・日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院・日本高血圧学会専門医認定施設・日本心血管インターベンション治療学会研修施設・日本プライマリ・ケア連合学会認定施設・日本内分泌・甲状腺外科学会認定施設・日本がん治療認定医機構認定研修施設・日本緩和医療学会認定研修施設・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設・日本肥満学会認定肥満症専門病院・日本呼吸器内視鏡学会認定施設・日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設・非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設・非血縁者間末梢血幹細胞移植認定施設

23. トヨタ記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（ハートフルネット）があります. ·ハラスメント委員会がトヨタ自動車株式会社内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です．0～6 歳児に対応，病児保育も行っています.
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に治験委員会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に 2025 年度は計 2 演題学会発表をしています. · その他各専門学会などに 2025 年度発表は、49 演題（循環器内科 11、消化器内科 10、脳神経内科 10 他）でした。
指導責任者	石木良治 【内科専攻医へのメッセージ】 ※内科の全科に専門医が勤務しており，指導体制も整っているため，充実した内科研修

	をおくることができます. また，総合内科では臓器にとらわれない疾患検索，全身管理や治療を学ぶことができます. 感染症科も独立しており，専従の専門医２名が勤務しているため，質の高い感染症診療を実践しています．感染症科ローテーション中だけでなく，各科研修中も感染症診療に関して充実した研修を受けることが出来ます. 当院は年間約 23,000 人の ER 受診患者，約 8,700 台の救急車搬入があり，うち半数が内科疾患による受診です．救急科の指導体制も整っており，救急疾患に関しても充実した研修を受けることが可能です. 内科全体として症例検討会などのカンファレンスを行っており，各科の交流が多く，複数科にオーバーラップした疾患を受け持った際も複数の専門科指導医から指導を受ける事ができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 33 名，日本内科学会総合内科専門医 30 名 日本消化器病学会消化器専門医６名, 日本循環器学会循環器専門医 13 名, 日本内分泌学会専門医２名 日本糖尿病学会専門医２名, 日本腎臓病学会専門医３名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医７名, 日本血液学会血液専門医５名, 日本神経学会神経内科専門医４名, 日本アレルギー学会専門医（内科）２名, 日本リウマチ学会専門医２名, 日本感染症学会専門医３名, 日本救急医学会救急科専門医６名, ほか
外来・入院患者数	**日当たり外来患者数　1,270 名** **月当たり新入院患者数　1,331 名**
経験できる疾患群	**きわめて稀な疾患を除いて，「J-OSLER」にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.**
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会新専門医制度教育病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会 認定施設 日本カプセル内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会 専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医認定施設 日本腎臓病学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本脳卒中学会 専門医認定制度教育施設 日本アレルギー認定教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医認定研修施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本静脈経腸栄養学会 実地修練認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 National Clinical Database 参加施設 など

24　東京医科大学病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･労務環境が保障されています。 ･臨床心理士によるカウンセリング（週 1）を実施しています ･ハラスメントに関する委員会が整備されています。 ･休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に保育施設があります。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医 122 名が在籍しています。 ･研修管理委員会を設置し、基幹施設との連携により専攻医の研修支援体制を構築しています。 ･「医療安全」「感染対策」「個人情報保護」「コンプライアンス」に関する講習会を定期的に開催しています。 ･病院倫理委員会（月 1）を実施しています。 ･JMECC 院内開催を実施しています。
認定基準 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	･臨床研究が可能な環境が整っています。 ･臨床研究支援センター、治験管理室が設置されています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	専門研修プログラム統括責任者　清水　聰一郎（高齢診療科主任教授） 【内科専門医へのメッセージ】 新宿区西新宿駅に位置する特定機能病院で、内科系診療科（総合診療科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病･代謝･内分泌内科、リウマチ･膠原病内科、神経内科、消化器内科、腎臓内科、高齢診療科、臨床検査医学科、感染症科）および救急領域での研修が可能です。 特定機能病院の特長として症例数が豊富で、幅広い症例を経験できます。最新治療や設備のもと、内科専門医として必要な技術を習得できる環境を提供します。他科との

	風通しも良く、他職種とのチームワークの良さも特長のひとつです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 68 名、日本循環器学会専門医 17 名、日本集中治療医学会専門医、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本血液学会〔専門医 12 名、指導医 8 名〕、日本呼吸器学会〔専門医 7 名、指導医 3 名〕、日本甲状腺学会専門医、日本神経学会〔専門医 10 名、指導医〕、日本消化器病学会〔専門医 32 名、指導医 14 名〕、日本肝臓学会〔専門医 10 名、指導医 3 名〕、日本消化器内視鏡学会〔専門医 31 名、指導医 13 名〕、日本消化管学会〔指導医 5 名〕、日本腎臓学会〔専門医 18 名、指導医 6 名〕、日本透析医学会〔専門医 16 名、指導医 4 名〕日本高血圧学会〔専門医 3 名、指導医〕、日本病態栄養学会専門医、日本認知症学会〔専門医 12 名、指導医 9 名〕、日本脳卒中学会専門医 8 名、日本老年医学会〔専門医 12 名、指導医 10 名〕、日本リウマチ学会〔専門医 8 名、指導医〕、日本アレルギー学会〔専門医 2 名、指導医 2 名〕、日本糖尿病学会〔専門医 20 名、指導医 5 名〕、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 8 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 55,484 名(1 ケ月平均)　入院患者 2,228 名(1 ケ月平均延数)　(2022 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会の認定施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本睡眠学会認定睡眠医療認定医療機関 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定 不整脈専門医研修施設証 ペースメーカ移植術認定施設 埋込型除細動器移植術認定施設 両心室ペースメーカ移植術認定施設 両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本呼吸療法専門医研修施設 日本認知症学会認定教育施設 日本老年医学会認定施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院

	認定輸血検査技師制度指定施設 日本臨床検査医学会認定病院 日本輸血学会指定施設　　他

25. 今村総合病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・今村総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が今村総合病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・企業主導型保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は6名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2021年実績2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022年度実績　病診・病病連携カンファレンス　毎週火曜日開催）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2022年度開催実績0回：受講者0名　開催の検討を行ったものの、コロナの影響もあり、ディレクターとの調整がつかず、未開催。）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、および救急の分野で定常

	的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年 2 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022 年実績 13 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 4 演題）をしています。
指導責任者	西垂水　和隆 【内科専攻医へのメッセージ】 総合内科では屋根瓦の中心となって救急・病棟・集中治療・感染症・膠原病診療について研修、指導を行う。その他血液内科・脳神経内科・消化器科・循環器科などの専門性の高い診療科での研修も可能。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者延数　12,744（1 ヶ月平均）、入院患者延数　10,453 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設など

26. 前橋赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者 兼 プログラム管理者：渡邊 俊樹（総合内科部長） 総合内科専門医かつ指導医）；専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されて いる研修委員会との連携を図っています。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度 実績 18 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を 与えています。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度 実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、前橋地域救急医療合同カンファレンス、前橋市 内科医会循環器研究会、前橋市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会）を定期的に開催し、 専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催：実績 1 回、受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科プログラム管理委員会 及び 研修管理課が対応します。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が 可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修することができるます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 7 体、2022 年度実績 7 体、2023 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023 年度 実績 4 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度 実績 12 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	渡邊　俊樹（総合内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の内科系診療科は、総合内科、脳神経内科、心臓血管内科、呼吸器内科、消化器内科、リウマチ・腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、感染症内科、血液内科と専門診療科が充実しており、急性期医療を担っていると同時に、地域支援病院や前橋医療圏の地域がん診療連携拠点病院として多くの紹介患者を診察しております。さらに当院は群馬県医療の中で救急医療や災害医療の中心的な存在でもあるため、内科救急疾患も数多く診察しております。内科専門医を目指す研修として、各診療科の専門医を目指す研修として、幅広い症例を経験すると同時に専門性の高い充実した研修が可能です。ぜひ私たちと一緒に質の高い研修をおくりましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　10名 日本内科学会総合内科専門医　15名 日本消化器病学会消化器専門医　5名 日本循環器学会循環器専門医　5名 日本糖尿病学会専門医　3名 日本腎臓病学会専門医　3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　4名 日本血液学会血液専門医　3名 日本神経学会神経内科専門医　1名 日本アレルギー学会専門医（内科）　2名 日本リウマチ学会専門医　1名 日本透析医学会透析専門医　1名 日本感染症学会専門医　1名 日本救急医学会救急科専門医　16名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者　3,592名（全科1ヶ月平均/実数）（令和5年度実績） 入院患者　623名（全科1ヶ月平均/実数）（令和5年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験する ことができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する ことができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設　　など

27.昭和医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人権啓発推進室）があります。 ・ハラスメントについても人権啓発推進委員会が昭和医科大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 81 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を提供し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに指導医の在籍していない施設（特別連携施設：診療所や過疎地病院、あるいは研究施設等を想定）での専門研修が含まれる場合には、基幹施設に所属する指導医がその施設での研修指導を行えるような工夫をしています（テレビ電話等）。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全ての領域、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
認定基準 【整備基準 24】 指導責任者	相良　博典 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は 8 つの附属病院を有し、東京都内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	指導医数 (常勤医) 日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、 日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本循環器学会専門医 25 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、 日本腎臓病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 16 名、 日本血液学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 16 名、 日本アレルギー学会専門医(内科)10 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 10 名、日本老年医学会専門医 5 名
外来・入院患者数	外来：1999.5 人、入院： 814.1 人(2024 年度一日平均患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	学会認定施設 （病院全体） 日本内科学会認定医制度教育病院日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設日本内分泌学会認定教育施設日本透析医学会認定施設 日本アフェレシス学会認定施設日本腎臓学会研修施設 東京都区部災害時透析医療ネットワーク会員施設日本内科学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設日本脈管学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 骨髄バンク非血縁者間骨髄採取認定施設・非血縁者間骨髄移植認定施設日本血液学会血液研修施設 日本臨床薬理学会認定医制度研修施設日本老年医学会認定施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会研修施設日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会植え込み型除細動器／ペーシングによる心不全治療施行施設 日本心臓リハビリテーション学会認定施設日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設日本透析医学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本心臓リハビリテーション学会認定施設日本麻酔科学会認定病院

	日本集中治療医学会専門医研修施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構登録参加施設臨床遺伝専門医制度委員会認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本外傷学会外傷専門医研修施設 日本眼科学会眼科研修プログラム施行施設（基幹研修施設） 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設日本東洋医学会指定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院日本胆道学会指導施設 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度研修施設日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ研修会実施期間 日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ研修受入施設 公益社団法人日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設 全国環境器撮影研究会被ばく線量低減推進認定施設認定 特定非営利活動法人乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設 認定輸血検査技師制度協議会認定輸血検査技師制度指定施設公益社団法人日本診療放射線技師会臨床実習指導施設 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設

28. 大阪市立総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪市民病院機構職員（有期雇用職員）として労務環境が保障されています。 ・大阪市民病院機構としてメンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、医局・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 53 名在籍しています。 ・ともに総合内科専門医かつ指導医である、内科プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（診療部長）が各研修施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会 と事務局を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会（2022 年度実績 7 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（2023 年度実績 5 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスである都島メディカルカンファレンス（年２回）、キャンサーボード（年６回）、学術講演会（年１回）、DMnet one 研究会（年５回）等を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC（2021 年度開催実績 2 回：受講者 9 名、2022 年度開催実績 2 回：受講者 12 名、2023 年度開催実績 1 回：受講者 7 名）の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・内科専門研修管理委員会と事務局は日本専門医機構による施設実地調査に対応します。 ・特別連携施設（大阪市立弘済院附属病院）の専門研修では、電話・大阪市立総合医療センターでの面談（週1回）・カンファレンス等により指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうち、ほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績6体、2022年度実績9体、2023年度実績14体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4）学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績11回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発表（2023年度実績106演題）をしています。
指導責任者	川﨑　靖子 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪市立総合医療センターは、大阪市の中心的な急性期病院であり大阪市医療圏・豊能医療圏にある連携施設・特別連携施設と連携し内科専門研修を行い、　必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医53名（2023年度） 日本内科学会総合内科専門医50名、日本消化器病学会専門医12名、 日本肝臓学会専門医4名、日本循環器学会専門医8名、 日本内分泌学会専門医（内科）7名、日本腎臓病学会専門医7名、 日本糖尿病学会専門医9名、日本呼吸器学会専門医6名、 日本血液学会専門医5名、日本神経学会専門医3名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1名、日本リウマチ学会専門医4名、 日本感染症学会専門医6名ほか（2023年度）
外来・入院患者数	内科系外来患者合計　174,097名（年間）　内科系入院合計　8,542名（年間）内科系のみ（2023年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携等も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設

	日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設等 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本てんかん学会てんかん専門医制度認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設栄養サポートチーム専門療法士修練施設 日本感染症学会認定研修施設 等

29. 東京ベイ・浦安市川医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ･ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 16 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と医師・研修管理室を設置しています･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し（2025 年度実績 4 回），専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に医師・研修管理室が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理審査委員会を設置し，定期的に開催(2025 年度実績 12 回、審査 115 件)しています ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています
認定基準 【整備基準 24】 指導責任者	江原　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です. 年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり，豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコモンディジーズを幅広く経験できます. 患者層も若年から超高齢者まで幅広く様々です. 当センターでは総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し，症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる 2 人指導医体制により，幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます. またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修(手技やコンサルト業務等)を行います。 設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名, 日本内科学会総合内科専門医 7 名, 日本循環器学会循環器専門医 8 名, 日本心血管インターベンション治療学会専門医 3 名, 日本消化器病学会専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名,

	日本消化管学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本腎臓学会専門医 5 名, 日本透析医学会専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 8 名, 日本集中治療医学会専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 1 名, 日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者　12,375 名（1 ヶ月平均）　入院患者　　8,471 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設　日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会研修施設　日本リウマチ学会教育施設　日本感染症学会研修施設　日本緩和医療学会研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設など

30. 国民健康保険依田窪病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	• 研修に必要なインターネット環境があります。 • 医師として労務環境が保障されています。 • メンタルストレス（ハラスメントを含む）に適切に対処する部署（衛生管理室）があります。 • 医療安全管理室に専従リスクマネージャーを配置し、対応しています • 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています • 託児施設があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	• 施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 • 医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンス、CPC など、必要なカンファレンス、研究会等があれば、その受講に関わる時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	上小二次医療圏に属する中小規模の医療機関。へき地医療拠点病院。 病床数131床（急性期43床、地域包括ケア病床88床）。 13領域のうち、消化器、消化器内視鏡、腎臓、肝臓の4領域について、研修が可能。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会、同地方会、日本消化器病学会総会・大会、日本肝臓学会総会・大会に学会発表をしています。 （2024 年度実績：4 題、2025 年度実績：1 題）

認定基準 【整備基準 24】 指導責任者	城下　智 【内科専攻医へのメッセージ】 地域に根ざした中山間地医療の最前線で、急性期から在宅まで一貫した内科診療を実践し、総合力を養うことができます。多職種連携と地域包括ケアを軸に、実践的かつ主体的に学び、地域医療の未来を担う医師への成長を期待します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会内科指導医　1 名 日本肝臓学会指導医　1 名 日本腎臓学会腎臓専門医　1 名 日本消化器病学会指導医　1 名 日本消化器病専門医　3 名 日本消化器内視鏡学会指導医　1 名 日本消化器内視鏡学会専門医　3 名 総合診療専門研修 特任指導医　1 名 ほか
外来・入院患者数	2025 年度／外来患者数 1 日平均 162.7 名、入院患者数 1 日平均 111.7 名
経験できる疾患群	内科専門領域、総合診療、地域医療に関わって幅広く診療経験を積むことができます。 また整形外科指導医が多数在籍しており、整形外科領域の経験も可能です。 自治体と提携した健康増進や予防医学活動に積極的に取り組んでいます。
経験できる技術・技能	一般的な内科診療に必要な技術 患者の環境調整に関わるコミュニケーション能力、調整力
経験できる地域医療・診療連携	当院では、急性期医療から在宅医療までを一つの流れとして捉え、地域の暮らしを支える実践的な地域医療を学ぶことができます。 附属和田診療所の運営や、隣接する上田市武石地域の武石診療所への医師派遣を通じて、地域に根ざした診療を展開しています。さらに、介護老人保健施設いこいを併設し、特別養護老人ホームともしびへの訪問診療も行うことで、入院後や施設入所後まで見据えた継続的な医療に携わることができます。加えて、長和町周辺での訪問診療、行政と連携した医師・看護師主体のコミュニティ活動を通して、病院の外へ出て住民の生活に寄り添う地域医療を実践しています。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　指導連携施設 日本肝臓学会　肝臓専門医制度　特別連携施設 日本腎臓学会認定教育施設

31. 一宮西病院

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります ・ハラスメントを取り扱う委員会があります ・無料職員駐車場、更衣室、当直室が整備されています ・提携した保育所があり、利用可能です
認定基準【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 23 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者;循環器内科副部長）、プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）が 基幹施設と連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義

	務付けます。 ・CPC を定期的に開催し（2025 年度実績 6 回） 、専攻医に受講を義務付けます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に研修管理委員会が対応します。
認定基準【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野は、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･倫理委員会を設置しています。 ･治験に適切に対応する部署（経営企画課）があります。 ･日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	田中 伸享 【内科専攻医へのメッセージ】 一宮西病院は、愛知県尾張西部医療圏の中心的な急性期病院であり、愛知県もしくは全国各地にある連携施設と協力して研修を行ないます。主担当医として,入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで経時的に、診断・治療の流れを通じて,社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　　23 名 日本内科学会総合内科専門医　　23 名 日本消化器学会消化器病専門医　　19 名 日本循環器学会循環器専門医　　13 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　　13 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医　3 名 日本腎臓学会腎臓専門医　　4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　　5 名 日本血液学会血液専門医　　3 名 日本神経学会神経内科専門医　6 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医　　2 名 日本感染症学会感染症専門医　　2 名
外来・入院 患者数	来患者 1,075 名（1 日平均） 入院患者 759 名（1 日平均）
病床	
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳にある 12 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診･病病連携なども経験出来ます
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本頭痛学会 認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会 認定教育施設 日本肥満学会認定 肥満症専門病院 日本感染症学会 認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

別表２　諏訪中央病院内科専門研修管理委員会

組合立諏訪中央病院	
プログラム責任者（循環器内科分野責任者）	若林　禎正
プログラム統括副責任者	永田　豊
研修委員会委員長	谷　直樹
消化器内科分野責任者	中山　剛
呼吸器内科分野責任者	鈴木　進子
総合診療科分野責任者兼救急科分野責任者	齋藤　穣
腫瘍内科・緩和ケア科分野責任者	山﨑　美佐子
看護部責任者	山本　敏哉
薬剤部責任者	伏見　幸浩
技術部責任者	濵　　一広
事務部責任者	矢﨑　富治
専攻医代表	南　優太
連携施設担当委員	
総合病院国保旭中央病院	塩尻　俊明
信州大学医学部附属病院	関島　良樹
諏訪赤十字病院	安出　卓司
聖路加国際病院	野村　篤史
東海大学医学部付属病院	和田　健彦
富士見高原医療福祉センター富士見高原病院	矢澤　正信
山梨県立中央病院	梅谷　健
山梨大学医学部附属病院	中村　貴光
東京女子医科大学病院	川名　正敏
千葉大学医学部附属病院	桑原　聡
佐久総合病院	高松　正人
佐久総合病院佐久医療センター	古武　昌幸
松本協立病院	上島　邦彦
日立製作所ひたちなか総合病院	山内　孝義
飯塚病院	井村　洋
公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院	北野　俊行
藤田医科大学病院	日比野　将也
東京科学大学病院	具　芳明
多摩総合医療センター	島田　浩太
堺市立総合医療センター	西田　幸司
中部ろうさい病院	原田　憲
亀田総合病院	中路　聡
トヨタ記念病院	石木　良治
東京医科大学病院	清水　聰一郎
今村総合病院	西垂水　和隆
前橋赤十字病院	渡邉　俊樹
昭和医科大学病院	相良　博典
大阪市立総合医療センター	川﨑　靖子
東京ベイ・浦安市川医療センター	江原　淳
一宮西病院	田中　伸享
依田窪病院	城下　智
事務局	臨床研修・研究センター

別表 3　諏訪中央病院
各年次到達目標

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

別表４　諏訪中央病院内科専門研修週間スケジュール（例）

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td></td><td></td><td>救急勉強会</td><td>内科外科
カンファレンス</td><td></td><td rowspan="8" colspan="2">担当患者の病態
に応じた診療/
オンコール/
日当直/
講習会・
学会参加など</td></tr>
<tr><td colspan="5">入院症例カンファレンス／
入院患者診療（各診療科）</td></tr>
<tr><td>救急総合診療
センター
（初診外来診療）</td><td>救急総合診療
センター
（救急外来）</td><td>内科外来診療
（各診療科）</td><td>内科検査検討会
（各診療科）</td><td>内科検査
（各診療科）</td></tr>
<tr><td>昼</td><td colspan="5">昼カンファレンス</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td colspan="5">入院患者診療（各診療科）</td></tr>
<tr><td>入院症例
カンファレンス
（各診療科）</td><td>内科検査
（各診療科）</td><td>抄読会</td><td>入院症例
カンファレンス
（各診療科）</td><td rowspan="2">救急総合診療
センター
（救急外来）</td></tr>
<tr><td>内科/総合診療科
カンファレンス</td><td>講習会
CPC など</td><td>地域参加型
カンファレンス
研修施設群合同
カンファレンス
など</td><td>院外講師招聘
カンファレンス
など</td></tr>
<tr><td>夜</td><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

★ 諏訪中央病院内科専門研修プログラム４。専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。
・内科および各診療科のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
・入院患者診療には、内科と各診療科などの入院患者の診療を含みます。
・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科の当番として担当します。
・地域参加型カンファレンス、研修施設群合同カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

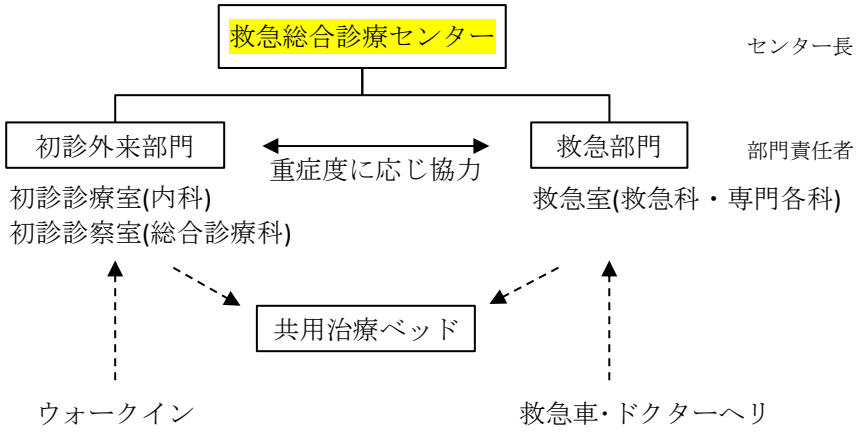
別表５　組合立諏訪中央病院・各センターについて

1. 救急総合診療センター

・北棟１階に、救急総合診療センターを設置する。

・初診外来及び救急車・ドクターヘリ対応を含めた救急外来を行う。

・内科・総合診療科・救急科・専門各科が、重症度・疾患に応じ協力して診療・治療を行う。



2. 臨床研修・研究センター

臨床研修・研究センター

┣研修部門

┣研究部門

┗キャリア育成部門

＜各部門の担当内容＞

①研修部門

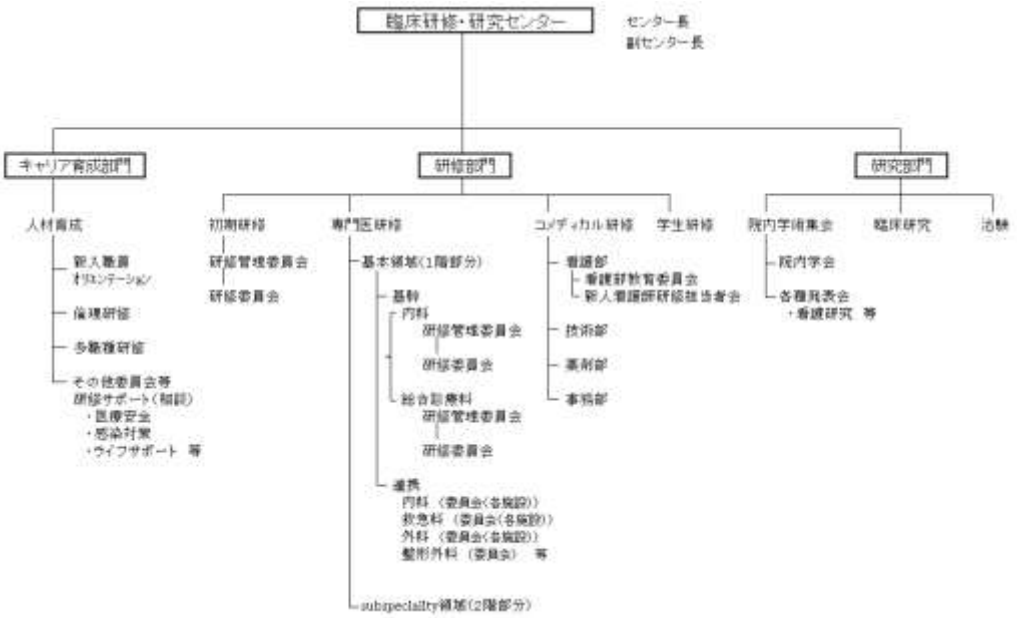
初期研修、後期研修、専門医研修及び、メディカルスタッフの各職種の教育研修のプログラム化と実施、学生研修の実施

②研究部門

院内学術集会の運営、臨床研究及び治験への支援

③キャリア育成部門

新人職員から管理職までの多職種連携による研修の企画運営、全職員のキャリア育成に関わること、学生研修の受け入れ環境の調整



別表６　各種実績

1．診療実績

入院及び外来の症例・分野別診療実績（2019 年度実績）

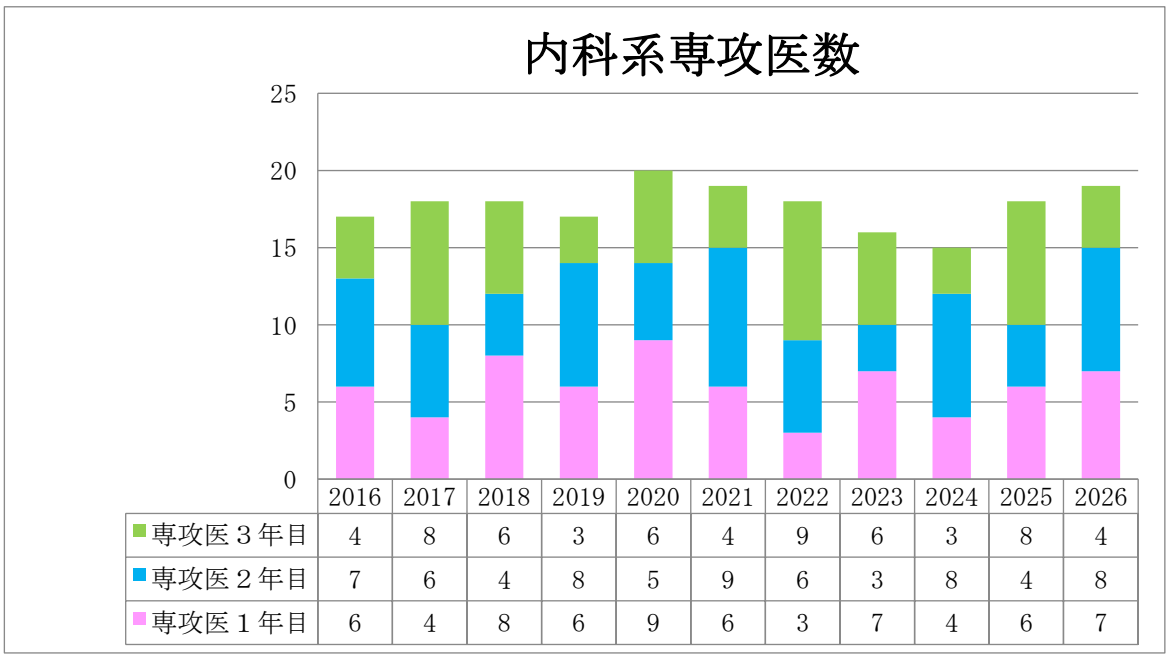
実数 / 分野	入院患者実数（人/年）	外来患者実数（人/年）
総合内科	287	2,818
消化器	688	6,406
循環器	708	3,557
内分泌	70	1,205
代謝	140	1,245
腎臓	360	1,330
呼吸器	1,020	2,248
血液	101	410
神経	495	1,681
アレルギー	52	836
膠原病	92	1,045
感染症	351	1,287
救急	316	2,276

2．剖検体数

2014 年度	13 体
2015 年度	12 体
2016 年度	10 体
2017 年度	10 体
2018 年度	11 体
2019 年度	10 体
2020 年度	7 体
2021 年度	5 体
2022 年度	3 体
2023 年度	8 体
2024 年度	5 体
2025 年度	5 体

3. 内科系専攻医※1採用数

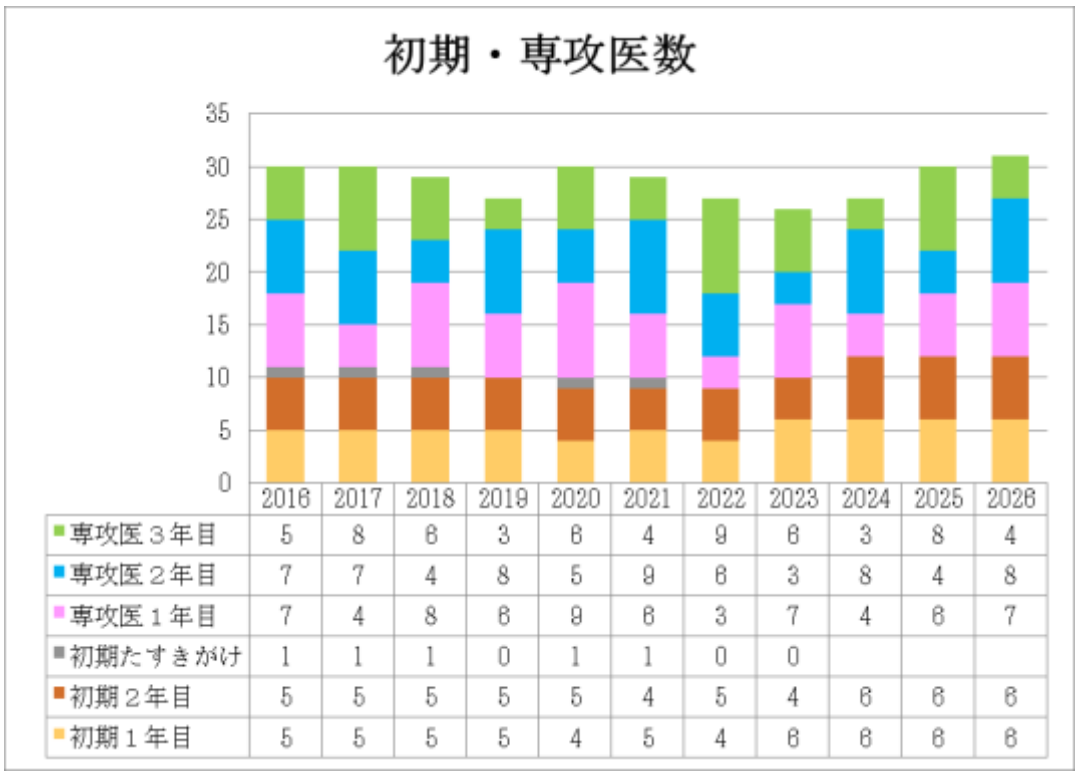
※1：新専門医制度前の当院独自採用の卒後 3～5 年目の医師のこと。内科認定医・総合内科専門医・家庭医療専門医等を目指し、研修を積んでいる。
2018 年度からは新専門医制度専攻医



	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
専攻医３年目	4	8	6	3	6	4	9	6	3	8	4
専攻医２年目	7	6	4	8	5	9	6	3	8	4	8
専攻医１年目	6	4	8	6	9	6	3	7	4	6	7

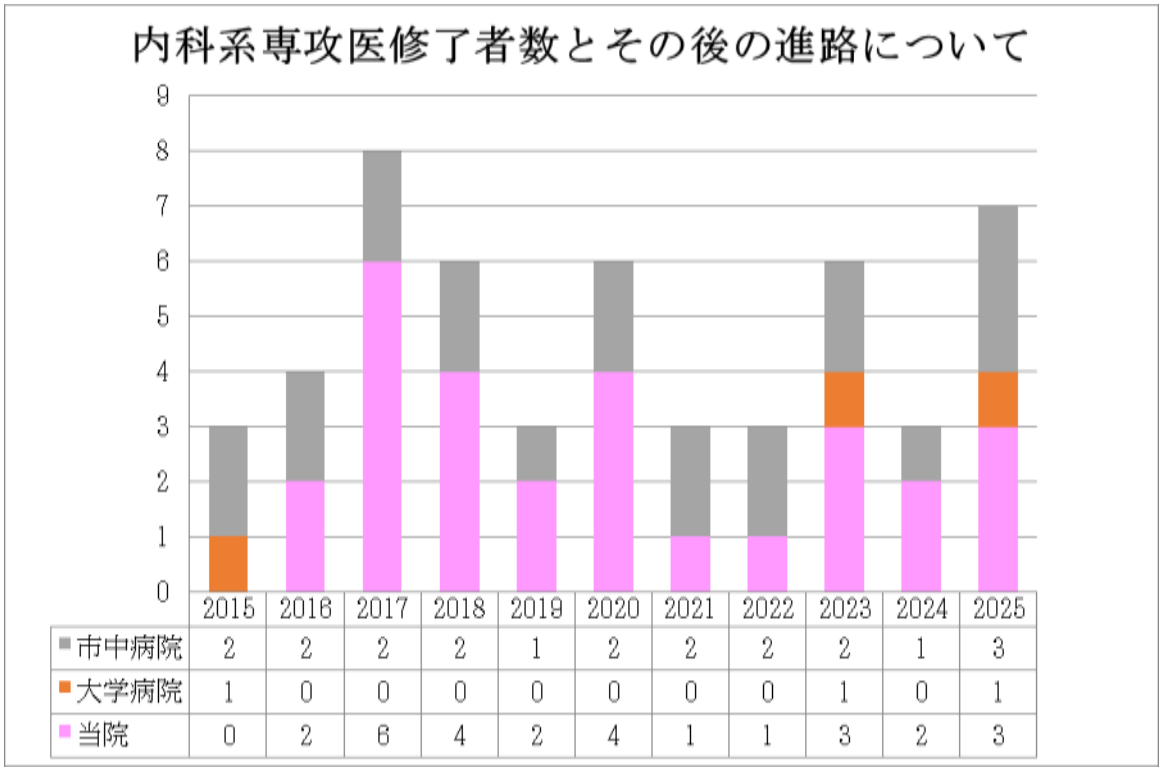
4. 初期研修医・専攻医※2数の推移

※2：当院採用の初期研修医、たすきがけで受け入れている初期研修医及び新専門医制度前の当院独自採用の全科（内科を含む）の卒後 3～5 年目の医師のこと(2018 年からは新専門医制度専攻医(内科、総診)数)。



	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
専攻医３年目	5	8	6	3	6	4	9	6	3	8	4
専攻医２年目	7	7	4	8	5	9	6	3	8	4	8
専攻医１年目	7	4	8	6	9	6	3	7	4	6	7
初期たすきがけ	1	1	1	0	1	1	0	0			
初期２年目	5	5	5	5	5	4	5	4	6	6	6
初期１年目	5	5	5	5	4	5	4	6	6	6	6

5. 内科系専攻医修了者数とその後の進路について



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
市中病院	2	2	2	2	1	2	2	2	2	1	3
大学病院	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
当院	0	2	6	4	2	4	1	1	3	2	3